

第五十四回全国吟剣詩舞道大会の開催にあたり

# いまこそ吟剣詩舞道の振興と 事業のさらなる活性化を目指すとき

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会 会長

沼崎 富

このたび、全国吟剣詩舞道大会が、日本財団助成事業・高松宮妃癌研究基金奉賛大会として開催されますことは、吟剣詩舞道界にとって、非常に意義深いことであります。

ご周知のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大により、斯界も厳しい時期が続き、各流派、会派の皆様方には、言葉に現わせないご苦労ご心労は如何ばかりかと、心中ご推察申し上げる次第でございます。

こうした状況にある今こそ、日本の歴史の中で生まれ、日本人自身が育ててきた伝統芸道である吟詠、剣舞、詩舞を、全国の指導者と会員の皆様のご協力をいただき、吟剣詩舞道を推し進めることが大切であると感じております。

本大会は五十回を越える全国吟剣詩舞道大会の歴史の中でも、初めて西日本地区で開催する大会となります。開催にあたって、中国地区連絡協議会及び岡山県吟剣詩舞道総連盟の皆様にはご尽力いただき誠にありがとうございます。

本大会のメインの一つである全国吟詠合吟コンクールを一チーム十五名として実施するとともに、全国コンクール優勝者による披露、少壮吟詠家選考審査会入賞者吟詠、地区連絡協議会推薦・幼少年代表・開催地代表による演舞、そして特別企画番組として、瀬戸内海を舞台とし、源平の争いを吟と舞で綴る構成番組「染む紫の雲の上まで」等、見応えのある充実の一日となるものと思います。

本大会を契機に、吟剣詩舞愛好家のみならず、広く社会一般の方々に吟剣詩舞の素晴らしさについて、改めて知っていただく良い機会になることを切望するとともに、この芸道の向上と普及の先に、これを本格的な国民芸道、すなわち、真の国民文化として発展させていきたいと考えております。

ここに日本財団の温かいご支援に深く感謝を申し上げますとともに、今後いつそのご協力をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

# 祝辞

日本財団助成事業・高松宮妃癌研究基金奉賛 第五十四回全国吟剣詩舞道大会

日本財団 会長 笹川 陽 平



このたび、第五十四回全国吟剣詩舞道大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

創設者である笹川良一は、かつて、このままでは「日本は経済で栄えて魂で滅びる」と憂えていました。物質的な幸せとともに精神的な充実感、この均衡が取れてこそ真の日本人といえるのではないのでしょうか。吟剣詩舞は、人の魂に栄養を与えるにまたとない芸道です。また、次代を担う青少年に礼と節、思いやりと親孝行を教え、協調と友愛の心を育むものでもあります。一人でも多くの次代を担う青少年の参加を期待したいものです。

さらに、この日本の伝統芸能を通して、海外の方々に日本文化の豊かさや日本人の精神性を広く周知していただきたいと思います。

又、私がライフワークとして取り組む、ハンセン病の制圧活動に長年にわたり皆様方からの浄財を頂戴しておりますことに御礼申し上げます。

今回の大会が、日本を代表する伝統芸能として再認識される機会となるとともに、本日の大会のご成功と、ご来会の皆様のご健康、ご活躍を祈念申し上げます。

# 祝辞

日本財団助成事業・高松宮妃癌研究基金奉賛 第五十四回全国吟剣詩舞道大会

文化庁長官 都倉 俊一



この度、第54回全国吟剣詩舞道大会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。  
今年も本大会が盛大に開催されますことは、ひとえに、日々精進を続けておられる全国各地の吟剣詩舞道家の皆様、並びに、主催者である公益財団法人日本吟剣詩舞振興会の長年にわたる御尽力の賜であると、深く敬意を表します。

吟剣詩舞道は、日本の歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた伝統的な芸道であり、礼と節をその心とし、詩歌に親しんで情操を高め、日本人の心を探求しながら、自己の陶冶を志向するものであるとされております。日々の研鑽によつて、先人から受け継がれてきた礼節を修得することはもとより、個々の創造性や表現力を高め、次世代へ継承・発展させていくことは、大変難しいものと拝察します。

そのような中で、吟詠や剣舞、詩舞の普及奨励と、芸術的向上に資することを目的とした本大会が果たす役割は大きく、世代を超えた吟剣詩舞道家の方々が一堂に集い、詠い、舞う、大変意義のある祭典です。御出場の皆様方におかれましては、この晴れの舞台を十分に楽しみつ、日頃の精進の成果を存分に発揮し、より多くの方々に吟剣詩舞の魅力を伝えていただきたいと思います。そして、御来場の皆様方には、洗練された数々の演舞等を通じて、吟剣詩舞の素晴らしさを存分に感じていただければ幸いです。

文化庁におきましても、歴史と文化が溢れる京都の地から、我が国が誇る伝統文化の継承・発展に取り組むとともに、文化芸術による新たな価値の創造の素晴らしさを発信していく所存です。引き続き、皆様方の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会に御出場の吟剣詩舞道家の皆様ならびに御来場の皆様の御健勝と御活躍、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会の御発展を祈念いたしまして、本大会に寄せるお祝いの言葉といたします。

# 吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠、剣舞、詩舞という、わが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によって、ますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならぬ。しかも、その実践はこの芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならぬ。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

会長 笹川良一

ほか役員一同

## 一、基本姿勢

吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々芸の研鑽と品性の陶冶に努める。

## 二、指導者の心構え

吟剣詩舞道を指導する者は、みづから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては、權威をもって臨む。

## 三、師に対する心構え

吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ秩序を堅持する。

## 四、分家 独立

吟剣詩舞道を行なう者が分家、独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。

## 五、他流との関係

吟剣詩舞道を行なう者は、他流の名誉を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。

## 六、吟剣詩舞道の普及向上

吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ。斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

## 七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力

吟剣詩舞道を行なう者は、相互に強調、互譲の精神をもって、斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも、動物有機体的団結をもって、日本の伝統に基づく、国家社会の正しい発展に寄与する。



# 大会役員

大会会長					大会副会長					実行委員					特別顧問					顧問				
沼崎富	徳寿	早淵	池内賢二	藤上翔山	清水錦洲	杉浦英容	小幡神叡	益中鵬山	廣重光風	山本泰洲	安永賀陽	横山精真	松永悠楓	早淵鯉操	二神清竜	志塚心將	大橋宗風	勝部吼嶺						
			吉田魁桜	安田水鈴	鈴木吟亮		藤原撰楠	前島昊龍	日置彩峰	横山寿城	多田正稔	青柳芳寿朗	山中梅鈴	藤上南山	石川春洋	佐々木一景	小林北鵬	阿部吟鳳						
			河野鶴聲	入倉昭星	田中臣	伏田尾毘城	矢萩鳳祥	野中秀鳳	杉浦容楓	山内正風	多田正満	田中岳藤	岡田翠松	鈴木啓仙	藤岡鶴伯	菱谷彩佑	田嘉風	甕經風						
			宮川紫朋	藤本誠堂	遠藤晃楓	高木法洲	武代禰洲	八代輝靈	小山野光翠	向山侑吟	八文宇剛	山口華雋	豊島榮陽	久保田信風	星野紫虹	渡辺櫻虎	梶原靈宗							



委員	真鍋 信洲	藤原 征風	森本 展鵬	好井 海山	家原 実誠	大石 尊洮
	森 尊英	浦部 圭泉	森脇 碧水	川寄 正山	水川 象景	浅上 楓諒
	安田 楓央	高橋 瑚秀	大月 玉恵	和氣 教世	三野 正俊	馬場 陽子
警備委員長	柴倉 勇洲					
同副委員長	北村 摂恵					
委員	小畠 青山	野瀬 貴洲	岩山 元風	岡本 粹風	本行 颯芳	梶原 健洲
	城井田岳英	早田 武岳	山下 瞳泉	赤木 榮泉	武田 美鵬	吉國 恵鵬
	松田 南学	判野 貴康	小林 寛笙	玉井 幸山	佐藤 春山	井上 蒼春
	木山 優一	北山 遼也	新美 璃空	木待 叡洲		
式典委員長	坪井 誓山					
委員	山坂 美鵬	杉山 友岳	岡崎 玉紹	山城 明洲	今脇 萌山	
賞状作製委員長	上野 尊倫					
委員	片岡 象真					
競吟委員長	今脇 萌山					
副委員長	奥田 萌麗					
委員	松山 恵煌	松尾 翠鴻	永岡 笙馨	川口 曜虹	野田 加代	安友 理恵
	鎌田 美波	松山茉莉名				
来賓受付委員長	藤上 翔山					
副委員長	有森 芳由					
委員	田中 珠山	三角園薫風	蟻正 寿萌	高橋 彩	藤上 綺夏	石原 愛美
	水野 光雪					
一般受付・会員券委員長	白神 君風					
副委員長	高山 鶴山					

出演者受付委員長	委員		日枝 柔鵬	松井 芳春	川野辺洋鵬	戸田 麗風	杉村 幸風	須崎 裕風
	副委員長		久保輝一鵬	畑中 鴻伯	岡本 斉萌	川上 嬉紹	梶原 有紹	
司会委員長	委員		猪木原漑泉	竹内 芳園	井上 芳優	平松 韶泉	山本 芳螢	川口 虹山
	副委員長		大塚 芳媯	下古立虹園	松浦 染昇	猪木原怜花		
来賓接待委員長	委員		河田 蕩泉	関口 麗風	景 芳容	白神 綱風	遠藤 麗泉	岡野 恵淳
	副委員長		米本 耿泉					
昼食委員長	委員		大西 岳美	西井 岳慶	藤原 恵友	間野 縁心	中溝 順子	
	副委員長		内藤 秀山					
音響委員長	委員		今井 尊容					
	副委員長		谷野 恍風					
吟詠進行委員長	委員		岸 実燿	和氣 栄世	神田 鶴秋	浅利 黎山	長田 恵就	安原 華水
	副委員長		宮末 紫孝	千田 紫新	藤井 順岳	井上 弘泉	和田 尊晶	西村 尊祐
副委員長	委員		神崎 芳貢	武田 芳岳	倉橋 岳紅	逢坂 信縁	松田 恍玉	内田 正子
	委員		銅山 寛鵬	植田 善風				
副委員長	委員		長瀬 隆鵬					
	委員		安藤 紫靖	菅源 右光	小川 勇山	宮本 美泉	高岡 里水	榎尾 妃風
委員	委員		田中 涼風	武政 紫柑	岡 芳絳	岩佐 芳榮	原 恵千	村上 恵洲
	委員		大山 師泉	武 綯泉				

大会本部	広報委員長	医務局	着付委員長	舞台委員長	剣詩舞進行委員長
事務局長 大田 直樹	委員長 菅源 左麗		委員長 松永 楓山	委員長 藤島 恵隼	副委員長 安井 薫山
事業課長 大塚 政暢		馬場 恵純	委員 那須 華清	委員 高田 将学	委員 柳本 秀玲
総務課員 森谷 文子		宮本 美泉	岡崎 侑象	王田 晃隼	浅原 鐘風
		川口 曜虹		杭田 誠秀	奥山 翔佳
		森脇 碧水		永瀬 健一	田中 美紅
					北山加寿美
					高見 瓊翔
					黒田 和風
					雪深
					白神 影泉
					白神 新泉
					藤井 莊薫

## 吟詠テキスト (A4版)

上段には詩文にアクセントと解説  
下段には十線譜に音程を表記

- ◆中国絶句編〔105題〕…………… 3,000円(税別)
- ◆日本絶句編〔125題〕…………… 3,000円(税別)
- ◆短・和歌編〔115題〕…………… 2,500円(税別)
- ◆中国律詩編〔66題〕…………… 2,500円(税別)
- ◆日本律詩編〔63題〕…………… 2,500円(税別)

発売中

- ◆吟詠と音の関…………… 2,500円(税別)
- ◆詩吟と歌を結ぶ声の高さ…………… 2,500円(税別)
- ◆尺八・箏の詩吟伴奏…………… 4,500円(税別)

## 吟詠カラオケ

音程別伴奏カセットテープ  
<低10本(水3)～9本まで12音階>

- ◆一般編(尺八・箏)…………… 2,200円(税別)
- ◆中国編(笛・笙・琵琶・三味線・横笛)…………… 2,200円(税別)
- …………… 2,200円(税別)
- …………… 2,000円(税別)
- …………… 2,000円(税別)

流用か確認中

書 出 版 社

〒502-0004 岐阜市三田洞861番地の2  
TEL058-237-5837(代) FAX058-237-6651

大会参与

桃山	三枝	土屋	中田	小沼	奥積	郡司	石塚	佐藤	佐藤	館田	東田	松田	前田	東	岡田	中武	足立	橋本	田畑	見城	石井	埜本	大野	柿内	多田	清水	山本	
玉涛	契憲	惠鵬	子鳳	曉風	修葉	精政	清仁	刀洲	岳秀	錦風	鶯洲	國旺		卓靈	豊山	一穂	玲星	緑曄	清邦	水姫	星舟	桃苑	朋穂	豊寿	岳正	正晃	穂晨	兼正
山室	野坂	杉本	原	長谷川	安増	瀬間	佐藤	高橋	館岡	下村	溝口	橋本		久保田	山田	藤原	二神	木戸	池田	米山	田中	齋木	古賀	青柳	菅源	松井	笠井	
瑞山	隆玄	豊翠	契如	煌道	源洲	踪心	凱涼	一誠	奥鵬	吟紀	國透	精滌		章風	伯峯	光伶	清鷹	一声	菖黎	岳麗	竜真	彩染	桜紅	太朗	右光	松聲	栄俊	
長嶋	渡辺	吉田	武藤	水谷	小池	広町	野中	金子	庄子	佐藤	藤村	西口		菰田	上岡	松本	吉田	森岡	佐々	前山	和田	星野	八代	藤井	大島	河田	氏原	
契学	錦翔	帛鵬	嶺栄	貴洲	鷺苑	心純	琴風	凱恍	輝泉	旭洲	希鷺	琴玲		鳳秀	眺壯	緑扇	嶽山	盟山	木穂	紫峰	彩楓	洲虹	光晃	芳洲	需泉	藤泉	容石	
篠崎	福田	片山	林	林	渡辺	小林	栗田	宮川	山尾	高橋	寺林	小野		森脇	渡辺	向山	野中	中島	棉生	浅田	塩澤	佐々	宮本	胡中	藤野	後藤	佐藤	
興國	秀峰	奏鵬	煌成	華仙	星琴	映洞	姚雲	紫茜	誓慶	岳洲	錦紗	北星		櫻泉	紘山	侑真	秀宗	瞭風	珠童	聖謙	宗鳳	木翠	精秀	翠陽	昭鍊	月戈	翔風	
藤木	秋山	長谷川	石川	小林	平原	吉田	鈴木	皆川	伊藤	笹井	長谷部	平沼	平野	吉田	飛田	安部	大森	山岡	内藤	窪田	上久	中林	高山	伊東	菊川	黒田		
岳龍	精正	煌研	春芳	瀨玉	東道	龍心	心楊	龍旺	岳眺	岳煌	紫帛	惣俊		岳晴	觀心	野神	洸靈	英風	桜山	奉悠	榮将	雪女	涼風	鶴山	秀峰	八千穂	秀月	



杜下	小坂	土井	千田	平川	小川	鉤	河田	金戸	亀山	妙中	植村	藤本	中谷	後藤	斎藤	森	久保	島	松岡	酒井	田代	滝本	高橋	根布	鈴木	田崎	藤井	大金
勝峰	蘆洲	典周	岳鵬	水昂	岳嶺	正賀	婉城	静華	尚恍	快紀	鷺登	紫滔	将鳳	娟桜	胡心	眺終	昌風	岳周	岳伸	博邦	琇峰	紫苑	嶺香	根布	遊月	鴻聖	伯陵	寿楓
倉本月	谷野	二宮	藤岡	尾崎	青柳	湯崎	吉村	藤田	洞	川口	北川	鈴木	小嶋	加藤	出島	中村	栗原	稻葉	落合	浦田	小笠原	菅原	加藤	粕谷	大塚	中嶋	清宮	齋藤
華城	恍風	信風	鴻琳	合泉	芳榮	慧月	應洲	鳳風	觀城	芳葉	風鼓	永山	水心	象山	岳将	義明	超歌	岳詔	總穂	岳佑	岳鋒	磨佐	岳紅	鳳堂	隆豊	美声	吟照	心晃
杉原	河村	河村	向山	中西	笹野	中村	矢野	松野	寺田	久保	辻本	森宗	岡田	堀口	北瀬	大川	愛知	坂井	赤塚	武仲	川嶋	谷地	小池	中野	佐藤	杉林	猿渡	高田
馨仁	志風	昇山	滄洲	撰獎	華翠	雄声	涼泉	春秀	洋洲	正鳳	水桂	呀城	桜幻	孝心	岳櫻	清城	紫嵩	岳静	瑞朋	神憲	絢寶	煌水	洵風	吟紫	瑞鳳	光樹	柳水	禎彰
秦	竹内	佐々木	佐々木	山本	古田	中村	山田	前川	井上	竹内	芳倉	大場	小林	稻垣	本野	酒井	今村	石橋	岡田	村瀬	長江	美咲	魚住	柳	江口	船田	河上	金子
早洲	龍馨	龍花	龍混	驚風	哲壯	旭聖	静将	鯉佳	淳泉	清峰	岳正	快川	岳峰	岳耀	南賜	彩邦	穂浩	精峰	郊風	奉星	龍庵	伸水	裳風	清鳳	茨翠	麗風	君峰	
高木	山城	西向寺	長尾	坪井	細田	田中	北川	志田	坂本	稲田	縄本	上田	山村	中村	井戸	榊原	荒井	高田	青山	三浦	後藤	杉田	奥谷	山田	鷺見	木村	垣下	林
婉風	明洲	靜邦	岳鷺	誓山	璋行	祐泉	水正	撰領	碩秀	菖胤	東嶺	水学	素心	紫堅	錦正	宝勲	箕洲	兼風	隆陽	東洲	真風	重溪	宝昌	彩綺	國仁	峰月	真萩	精郷

菊池	後藤	大木	多田	柳本	丹内	伊東	池田	内藤	岩崎	濱崎	江口	牧	福光	葵	明神	矢野	宇都	尾松	奈良	中津	若狭	豊崎	大平	嵯峨	田村	為広	秦
岳東	祐岳	國晶	岳洲	豊州	光曙	筑珠	趣峰	光廉	岳萌	曉舶	撰莊	庸靈	季瑞	秀鳳	岳春	公琇	清克	靈幹	靈城	瑞津	仙秀	士泉	瑞應	龍煌	江道	泰鈴	鶯洲
立見	渡部	寺嶋	大山	関根	日向	池田	測上	大坪	岡野	日向	石村	野上	岩田	正野	北村	藤村	堀田	安藤	永山	藤原	吉田	新名	土江	斎藤	大越	大平	草薙
岳元	鳳堂	錦良	翔峰	靖桜	梅峰	岳彩	蘇孝	松蓮	麗風	美代峰	岳光	眞靈	栄彦	選靈	秀鈴	瑞宝	燧翔	鶴風	靈訓	黎元	稻山	靈靄	鴻雲	公昂	清透	瑞翔	瑞瑤
野村	石川	佐藤	梅田	吉田	柴田	宮崎	永田	森	永渕	日向	藤本	清家	椎原	松山	大勝	市原	篠原	橋崎	松原	山本	亀谷	小田	木地	島口	中野	山内	木村
岳粹	渾風	宸洲	錦翠	徳桜	紫幸	精英	岳鷺	豊彗	楠風	春峰	詩堂	穂香	大雅	櫻鳳	秀春	善鶯	脇泉	圭風	綾風	翠浩	龍藍	孝風	谷公	豊光	應泉	松湜	幻泉
宮島	砂澤	澤上	水谷	阿部	中山	吉村	北原	吉竹	福井	梯	折敷	甫守	内山	有澤	坂東	岡崎	野田	前原	日野	石田	草薙	上本	長田	福家	田原	萱本	
神鳳	紫齋	吟琇	嶺華	國耀	優堂	廣山	神勢	誥靈	桜也	劍麗門	綾露靜	鈴蓉	光倫子	翠円	鴻奏	雄光	湘風	洋風	鳳昇	瑞房	賢風	竹永	岳心	鳳山	莊洲	如泉	
高田	穴戸	中根	小林	奥原	津村	緒方	向山	湯本	寺町	高巢	山北	濱田	緑川	小塩	安藤	大窪	坂本	和泉	原田	中本	菊池	濱田	桃井	泉	神崎	谷本	
峰精	岳莊	静褒	惣瑞	櫻翔	義恵	豊幸	侑里	阮靈	松博	娟峰	鈴川	岳涛	優聖	晃楼	鴻蓉	勢鶯	香峰	靈花	瑞祥	景妹	梅憬	翠峰	鴻春	耕光	江龍	鵬泉	

小林	森島	猪木	上田	土本	田中	安田	中西	宮本	中嶋	山崎	高瀬	鈴木	長谷川	森下	迫	鬼澤	神尾	加藤	宇井	伊藤	門倉	吉野	大関	御手洗	田代	柳生	中島	藤尾
翠山	麗桜	原漚	水風	堤声	撰洋	静月	剛賀	妙岳	宗山	天誠	輝風	君星	京楓	聡陽	翔豪	吟瑛	昭城	契琵	修光	契麗	香江	煌瑤	勝風	洗貴	鐔燈	吟川	園心	志壽
片山	大山	木村	寺田	青柳	下河	田中	桶谷	成田	中川	堀	高橋	米岡	岡本	佐藤	中澤	土方	上田	古城	梶原	黒柳	山崎	牧	石井	山城	師岡	井川	慶	
久山	馨風	師泉	紫航	将曄	芳紀	頌風	美岳	秀桜	岳湧	簗岳	精慎	彰峰	義仁	慧鵬	吟湧	昊鶴	翠風	精宝	麗修	誠心	神雲	蘇山	錦文	鷺神	凱銳	邑帥	正之丞	
小谷	増田	今脇	梅原	田辺	大木	長嶋	溝脇	今村	四ツ	岡田	経田	山田	辻	掛布	横山	太田	見城	和田	丹羽	川上	花澤	藤田	藤井	鈴木	星野	八森	藤田	一條
賀	清範	珽山	萌山	香山	永心	岳扇	蓮風	詩景	紫長	倉蓮	玲月	岳悠	錦翠	由美	龍華	修道	心隼	琇嶺	龍風	秋水	國愛	霜晃	鳳翔	溪月	星滄	悠生	吟孜	岳皇
中島	青木	内藤	西口	安倍	中町	和田	安倍	林	小池	石田	山田	神林	清水	伊藤	星野	甕	高橋	石川	白男	大野	野地	檜山	櫻堂	永田	石田	小林	三浦	上田
翔竜	剣心	秀山	拡壽	秀風	佳洲	正栄	呈風	龍山	輝星	天麗	天翔	秀洲	燎鵬	正峰	紫榮	溪風	清洲	春学	鸞苑	酬月	露風	紫翔	和洲	春濤	鳳章	翠晴	恵月	岳美
中西	岸田	松永	米本	小嶋	藤原	柏木	佐々	田中	蒔田	黒澤	万代	中田	鳥居	杉村	山本	竹内	国分	石川	今村	五月	小倉	志村	亀井	北川	小谷	笹野	土澤	佐藤
白誠	天洲	楓山	耿泉	一心	撰鵬	鯉岳	秀景	心泰	芽心	眺藍	紫龍	天心	翔鵬	征香	墨粹	正城	国壮	春海	契鉅	凱昂	契秀	静紅	麗岳	鍛星	煌弘	正廣	美岳	旭峰

森田 一星	高根 麗峰	金房千代藤	古川 岳勝	日下光真子	深田 振靈	江藤光鈴子	長谷川芳泉	和田 瑞友	齊藤 靈佐	吉本 条風	田中 容響	井上 燧苒	岡田 岳漳	谷田 姿城	長崎 岳聆	大西 岳靜	高畠 水功	山本 紫煌	藤岡 江心	河端 若翠	野方 洋泉	福井 姚泉	日下 丘泉	小川 聰風	関口 麗煌	白濱 妃風	新内賀久隆	二井谷健山
森田 和星	山中 鈴鷺	佐々野岳玲	中川 義若	春藤光馥子	藤本光慎子	廣瀬光詔子	小塩 岳翔	椎原 恵雅	合田 靈宗	田中 現洲	中野 琇城	小澤 薫風	西村 容育	西村 靈洸	下村 容宗	徳橋 鵬聖	椎江 景公	大森 麗禎	武田 翠信	三瀬 松宣	高口 姁泉	中村 江風	長尾 曾泉	玉井 薫風	松浦 良紀	山本 龍貴	道田 煌山	藺田 華山
榮 岳蓉	藤城 宗丈	杉田 肯靈	北村 桜京	大野光宏子	蟬川内藤靈	原田光玲子	和嶋 克峰	古賀 鶯鳳	松下 佳峰	大谷 溪祥	田中 靈明	村田 瑞龍	窪内 寛鳳	北村 秀綜	長崎 宇岳	岡田 容映	林 景華	宮本 勢洲	西渕 秀蘭	森 慧洲	篠原 靈菁	川原 靈鵬	鍛冶田洸風	金山 孝風	矢立 鳳山	菅源 左翔	竹森 彪華	白井 翠画
河野 声洲	向山 侑珠	有澤 岳幸	三木 勝風	伊藤 翠鳳	岩本光弘子	橋本 嶂靈	岩田 栄篁	堺 晃生	末永 翠峰	樗井 孝風	堅田 妙游	寺澤 瑞寛	名越 松苑	岡林 紫秀	田中 靈鳳	村上 岳咏	吉田 泰山	芝原 水聖	寺尾 恒洲	中井 靜玲	大窪 柳星	吉岡 靈裕	多田 黛泉	曾田 瑞恵	寺本 龍山	伊井野翔踪	菅源 右近	楠部 倫山
熊谷 栄亮	宮原 侑曲	富永 紅星	永野 岳尚	服部 桜局	伊藤光興子	藤田 瑛侯	石田 翔祥	楠本 啓風	吉田 恵峰	坂本 茶彗	林 柳冠	大西 瓔泉	寺尾 静咲	中澤 鳳扇	秋山 容芽	瀧下 鵬龍	原田 祥洸	田村 水龍	大野 江姚	矢野 翠楓	西藤 櫻山	山本 靈粹	佐々木政風	渡部 翠雲	佐々木伸山	加藤 熒泉	藤本 静寿	秋山 翠柳

上杉 史星  
川下 穂瑛  
定信 光弘子  
大瀬 西洲  
藤本 樹風

山中 梅鈴子  
未高 香祥  
梅木 光相子  
梯 剣真

伊東 響峰  
佐脇 穂祥  
関谷 光深子  
松田 岳秀

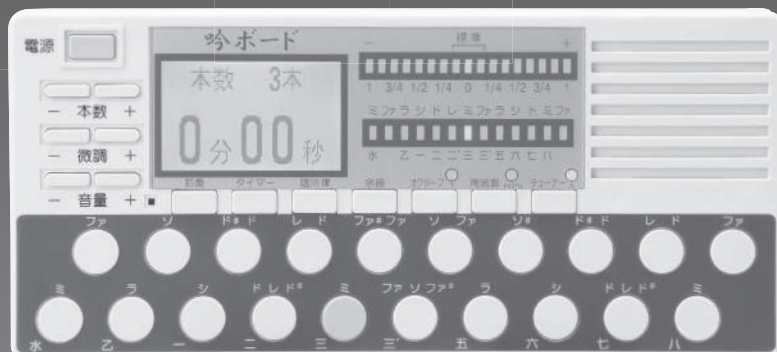
大野 豊華  
清水 穂櫻  
諫山 光之祐  
山地 麗莉

野田 岳珠  
恒成 光熙子  
中村 衣山  
奥村 麗瑤

# 吟ボード

注

声の音程を優先表示できる  
コンダクター（音程チューナー付）は、  
吟ボード（GB-250）しかございません!!



寸法：幅 220mm × 奥行 100mm × 高さ 27mm

定価 34,800円（税込 38,280円）

\*金利・手数料のかかりません

GB-250

- ① 外部マイクの差し込み口があり、CD伴奏曲と併用できます。  
この差し込み口も、吟ボード（GB-250）にしかございません!  
※これがないと、CD伴奏曲と併用できません。（調和の練習）
- ② 弾いた曲を三曲録音（全本数で）

## 流用か確認中

Q 吟ボード（GB-250）

A 音程チューナーの音程チューナーの音程チューナーを弾きながら声機能です。通常音を消すしかでターでその認識練習されても意味がありません。吟ボードはお客様が誤った認識をして使用されることがない様、声を優先表示します。また音階部（ラシドミファラシド）と微調部（標準・1/2 狂い等）が連動していますので、全ての音階・音程が色で分かりやすくチェックできます。

ております。吟ボードので、コンダクター（GB-250）にしかないイヤホンを使って機能がでないコンダクターの音程だと思って

音程チューナーのないタイプ

吟ボード

GB-500

定価 27,800円（税込 30,580円）



寸法：幅 220mm × 奥行 100mm × 高さ 27mm

\*金利・手数料のかからない分割払いも承ります。

5,000円相当のセット品が無料! [2機種共通]



① ACアダプター  
（コンパクトで軽量）



② 専用ケース（3色）  
（楽器を保護する素材）



③ イヤホン



④ 単3電池



株式会社 チカモリ

〒338-0006 埼玉県さいたま市  
中央区八王子2丁目17番6号  
FAX 048-858-6779



0800-0800-345（無料）

吟ボード

検索

E-mail: chikamori7@yahoo.co.jp  
URL: http://www.chikamori7.co.jp



第54回

日本財団助成事業・高松宮妃癌研究基金奉賛

# 全国吟剣 詩舞道大会

二〇二四年十一月十日（日）

## 次第

- |                                      |         |
|--------------------------------------|---------|
| 一、開場                                 | 九時〇〇分   |
| 二、式典                                 | 九時三〇分   |
| 三、全国吟詠合吟コンクール                        | 一〇時二〇分～ |
| 四、少壮審査会入選者・地区連絡協議会・<br>幼少年・開催地推薦吟剣詩舞 | 一三時一五分～ |
| 五、全国コンクール優勝者の披露                      | 一四時二〇分～ |
| 六、特別企画構成番組「染む紫の雲の上まで」                | 一五時二五分～ |
| 七、全国吟詠合吟コンクール<br>入賞団体発表と表彰及び大合吟      | 一七時〇〇分～ |
| 八、閉会のことば                             | 一七時三〇分  |

# 式典次第

〈司会〉河田 藤泉  
九時三〇分

一、国歌斉唱

二、会長挨拶

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会 会長 沼崎 富

三、来賓挨拶

倉敷市長 伊東 香織

四、祝電披露

五、高松宮妃癌研究基金奉賛目録贈呈

六、吟剣詩舞奨励賞授与

七、令和六年度吟剣詩舞大賞受賞者発表と表彰

八、第四十五期少壮吟士（全国少壮吟詠家選考審査会優秀成績者）紹介と表彰

令和六年度(第三十八回)

# 吟剣詩舞大賞 功労賞受賞者

順不同・敬称略

功労賞



宮川 紫朋

新潟 七十七歳

紫州流日本明吟会新潟本部  
会長、公益財団法人日本吟  
剣詩舞振興会理事、新潟県  
吟剣詩舞道総連盟理事長

功労賞



毛塚 静精

東京 八十一歳

吟詠精道会主幹、公益財  
団法人日本吟剣詩舞振興  
会元老、東京都吟剣詩舞  
道総連盟理事長

功労賞



田村天聖月

石川 七十八歳

渋川流剣詩舞道宗家、公  
益財団法人日本吟剣詩舞  
振興会元老、中部地区連  
絡協議会副議長

功労賞



芳倉 清峰

奈良 八十八歳

関西吟詩文化協会清峰会  
会長、公益財団法人日本  
吟剣詩舞振興会相談役、  
奈良県吟剣詩舞道総連盟  
理事長

功労賞



佐藤 翔風

鳥取 七十四歳

吟道翔風流日本吟翔会宗  
家会長、公益財団法人日  
本吟剣詩舞振興会参議、  
鳥取県吟剣詩舞道総連盟  
理事長

## 吟剣詩舞大賞 表彰制度

### 一、趣旨

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会(以下「公  
益財団」という)は、吟剣詩舞道において、  
優れた技量を有する者、及び多大な功績をあ  
げた者を表彰するため吟剣詩舞大賞表彰制度  
を制定する。

### 二、賞の種類

吟剣詩舞大賞は、部門賞としての吟剣詩舞  
三賞、及び特別賞としての吟剣詩舞芸術大賞  
に分けられ、内容は次のとおりとする。

#### イ、吟剣詩舞三賞

##### (1) 文化賞

吟剣詩舞の学術的研究で功績著しい人、  
及び吟剣詩舞界の全体的な発展啓蒙に功  
績ある人に与える。

##### (2) 芸術賞

吟剣詩舞の芸術面で卓越した人に与え  
る。

##### (3) 功労賞

吟剣詩舞の普及および公益財団運営の  
面で功績の大きい人に与える。

#### ロ、吟剣詩舞芸術大賞

吟剣詩舞の技芸の域が最高にある人に与  
える。なお、吟剣詩舞芸術大賞該当者が推  
薦された場合は、文部科学大臣表彰を文化  
庁を通じて上申することができる。

### 三、表彰の時期

公益財団の主催する全国吟剣詩舞道大会に  
おいて表彰する。

### 四、選考方法

公益財団会長の諮問機関として、吟剣詩舞  
大賞選考委員会を設けて選考する。

吟剣詩舞大賞  
功労賞受賞者

# 吟劍詩舞大賞 受賞者

昭和六十年(第一回)  
芸術大賞 笹川 鎮江(東京都)  
功勞賞 諸富 一郎(京都)  
昭和六十一年(第二回)  
文化賞 黒川 哲泉(大阪)  
芸術賞 深田 光霊(分)  
昭和六十二年(第三回)  
功勞賞 牛尾 榮洲(東京)  
昭和六十三年(第四回)  
功勞賞 太田 修道(千葉)  
平成元年(第五回)  
芸術賞 横山 岳精(神奈川)  
平成二年(第六回)  
功勞賞 吉岡 清風(愛媛)  
功勞賞 竹末 岳陽(長崎)  
平成三年(第七回)  
功勞賞 牧 蘇山(熊本)  
功勞賞 高群 花子(福岡)  
功勞賞 白神 錦城(大阪)  
平成四年(第八回)  
文化賞 船川 利夫(静岡)  
功勞賞 菅原 雪山(東京)  
功勞賞 多田 正栄(大阪)  
功勞賞 山田 靖邦(岡山)  
平成五年(第九回)  
功勞賞 伊東 秀峰(熊本)  
功勞賞 妻木 正麟(神奈川)  
功勞賞 早淵 鯉昇(兵庫)

平成六年(第十回)  
功勞賞 後藤 岳星(大分)  
功勞賞 海老澤 宏升(東京)  
功勞賞 石川 春洋(東京)  
平成八年(第十一回)  
功勞賞 伊藤 竹外(愛媛)  
功勞賞 高木 残峰(愛媛)  
功勞賞 野田 紫水(熊本)  
功勞賞 星野 紫虹(神奈川)  
功勞賞 芳枝(兵庫)  
平成九年(第十二回)  
文化賞 石川 健次郎(東京)  
文化賞 青方 健介(東京)  
芸術賞 河田 健介(岡山)  
芸術賞 山岡 哲山(兵庫)  
功勞賞 入倉 昭星(愛媛)  
平成十年(第十三回)  
功勞賞 石丸 清泉(愛媛)  
功勞賞 高群 華要(福岡)  
功勞賞 荒木 清峰(兵庫)  
功勞賞 山本 晃正(東京)  
平成十一年(第十四回)  
芸術賞 鈴木 吟亮(東京)  
功勞賞 工藤 龍堂(東京)  
功勞賞 浦口 鉄男(北海道)  
功勞賞 武田 静宗(京都)  
功勞賞 大西 麗風(香川)  
平成十二年(第十五回)  
功勞賞 小山 鳳慧(大阪)  
功勞賞 濱田 哲城(大阪)  
功勞賞 河野 吼山(広島)  
平成十三年(第十六回)  
功勞賞 若林 實風(京都)  
功勞賞 益中 櫻月(熊本)  
功勞賞 桂 心豊(北海道)  
功勞賞 白杵 鷺泉(香川)  
平成十四年(第十七回)  
功勞賞 神原 静芳(埼玉)  
功勞賞 小幡 神寂(愛媛)  
功勞賞 金井 心彰(群馬)  
功勞賞 坂本 厚雄(宮崎)  
功勞賞 黒木 厚城(佐賀)

平成十五年(第十八回)  
功勞賞 小倉 契秀(神奈川)  
功勞賞 西出 廣洲(奈良)  
功勞賞 河野 鶴洲(福岡)  
功勞賞 上家 濤邦(愛媛)  
平成十六年(第十九回)  
功勞賞 山中 梅鈴(熊本)  
功勞賞 西形 興信(神奈川)  
功勞賞 清水 悠楓(愛媛)  
功勞賞 松永 悠楓(愛媛)  
功勞賞 小笠原 紫曉(兵庫)  
平成十七年(第二十回)  
功勞賞 大本 旭章(岡山)  
功勞賞 椎野 瑞城(徳島)  
功勞賞 菊池 吟正(東京)  
功勞賞 福永 瀧霊(大分)  
功勞賞 今村 騰山(大阪)  
平成十八年(第二十一回)  
功勞賞 菅原 雪山(東京)  
功勞賞 箕輪 緑崇(大阪)  
功勞賞 太田 修道(千葉)  
功勞賞 梅田 賀久秀(鳥取)  
功勞賞 宮原 伯州(北海道)  
功勞賞 藤井 芳洲(大阪)  
平成十九年(第二十二回)  
功勞賞 藤原 摂楠(兵庫)  
功勞賞 吉見 芳蘭(東京)  
功勞賞 多田 正満(大阪)  
功勞賞 益中 誠風(香川)  
平成二十年(第二十三回)  
功勞賞 石濱 陽明(愛媛)  
功勞賞 藤上 南山(岡山)  
功勞賞 鈴木 凱山(福岡)  
功勞賞 鈴木 鷲恵(大分)  
功勞賞 茂木 宋洲(山形)  
平成二十一年(第二十四回)  
功勞賞 杉浦 容楓(愛媛)  
功勞賞 小松 大獅(山梨)  
功勞賞 岡田 翠松(愛媛)  
功勞賞 豊島 栄陽(大分)  
功勞賞 辻本 實峰(大阪)

平成二十二年(第二十五回)  
文化賞 篠原 久東(東京)  
功勞賞 宮田 実龍(大阪)  
功勞賞 青柳 芳寿(兵庫)  
功勞賞 松岡 吟琇(北海道)  
功勞賞 武田 禧洲(愛媛)  
功勞賞 野口 節風(福岡)  
平成二十四年(第二十六回)  
功勞賞 小野 光翠(大分)  
功勞賞 矢澤 鳳慶(神奈川)  
功勞賞 井川 賀埜(兵庫)  
功勞賞 山下 岳偉(石川)  
功勞賞 古賀 清竜(愛媛)  
功勞賞 古賀 桜州(佐賀)  
平成二十五年度(第二十七回)  
功勞賞 前島 昊龍(東京)  
功勞賞 松岡 萌洲(東京)  
功勞賞 野中 秀風(高知)  
功勞賞 佐々木 嶺城(広島)  
功勞賞 多田 鶴霊(大分)  
平成二十六年度(第二十八回)  
文化賞 押阪 忍岡(山梨)  
功勞賞 矢萩 保三(神奈川)  
功勞賞 八代 輝霊(宮崎)  
功勞賞 増田 壽岳(長野)  
功勞賞 飯森 壽岳(長野)  
平成二十七年(第二十九回)  
功勞賞 田中 秀藤(長崎)  
功勞賞 安倍 信風(岐阜)  
功勞賞 久保 春洋(東京)  
功勞賞 石川 鶴伯(広島)  
功勞賞 藤岡 瑞顯(徳島)  
平成二十八年(第三十回)  
功勞賞 中山 賢風(北海道)  
功勞賞 横田 岳峰(埼玉)  
功勞賞 日置 彩峰(愛媛)  
功勞賞 岡田 岳龍(大阪)  
功勞賞 日枝 師鵬(岡山)  
功勞賞 三田 梅鳳(愛媛)  
平成二十九年度(第三十一回)  
功勞賞 畑中 景心(北海道)  
功勞賞 志塚 心将(群馬)  
功勞賞 佐々木 一景(京都)  
功勞賞 廣重 光風(山口)

功勞賞 前田 靈泉(香川)  
功勞賞 伊藤 晃績(福岡)  
平成三十年度(第三十二回)  
文化賞 河野 正明(神奈川)  
功勞賞 山路 英治(千葉)  
功勞賞 広波 泰洲(三重)  
功勞賞 横山 寿城(大阪)  
功勞賞 井上 游洲(岡山)  
令和元年度(第三十三回)  
文化賞 青野 紘三(愛媛)  
功勞賞 星野 紫虹(神奈川)  
功勞賞 渡辺 櫻虎(静岡)  
功勞賞 安田 正稔(大分)  
功勞賞 多田 江悠(愛媛)  
令和二年度(第三十四回)  
功勞賞 佐々木 朝鵬(東京)  
功勞賞 北川 正風(愛媛)  
功勞賞 山本 哲水(奈良)  
功勞賞 古庄 吟法(熊本)  
令和三年度(第三十五回)  
芸術賞 徳田 寿風(香川)  
功勞賞 八文字 剛洲(東京)  
功勞賞 杉山 翔鴻(静岡)  
功勞賞 山口 華雋(大分)  
功勞賞 向山 侑吟(熊本)  
令和四年度(第三十六回)  
文化賞 石垣 清美(東京)  
功勞賞 菱谷 彩佑(愛媛)  
功勞賞 大伊達 不朽(愛媛)  
功勞賞 早淵 鯉将(兵庫)  
功勞賞 大本 翠山(広島)  
令和五年度(第三十七回)  
功勞賞 小林 北鵬(茨城)  
功勞賞 白井 寛洲(長野)  
功勞賞 山田 静将(京都)  
功勞賞 山原 雲宗(香川)  
功勞賞 笠井 栄俊(福岡)  
令和六年度(第三十八回)  
功勞賞 宮川 紫朋(新潟)  
功勞賞 田村 静精(石川)  
功勞賞 芳倉 清峰(奈良)  
功勞賞 佐藤 翔風(鳥取)

# 令和六年度全国吟詠合吟コンクール

一〇時二〇分～

## 令和六年度全国吟詠合吟コンクール 実施要項

審査委員長 副会長 徳田 寿風

特別審査委員会 会長 沼崎 富 演奏家 河野 正明

審査委員 理事 河野 鶴聲 理事 清水 錦洲 代議員 和田 彩楓

代議員 藤原光伶子 代議員 田畑 水姫 代議員 池田 菖黎

代議員 前山 紫峰

伴奏 財団指定『吟剣詩舞道伴奏集』（本数及び曲目はあらかじめ届け出たもの）による。

運営規定 ①出場団体の吟詠は漢詩絶句一題。吟題は課題吟の中からあらかじめ届け出たものとする。吟詠時間は二分

以内。一節を先導者が独吟し、くり返さず、次の節からすぐ合吟に移るものとする。

②審査は日吟振内規による「吟詠コンクール審査規定」に準じ、各審査委員の持ち点を一〇〇点とし、その合計点によって順位を決める。一位から三位までを特別入賞とし、四位から二十五位までを一般入賞とする。

上位同点の場合は審査委員長の決裁により決定する。

③賞状と賞品は次のように授与される。

一位 高松宮妃記念旗、日本吟剣詩舞振興会長賞、日本財団賞、金メダル

二位 日本吟剣詩舞振興会長賞、日本財団賞、銀メダル

三位 日本吟剣詩舞振興会長賞、日本財団賞、銅メダル

入賞（四位～二十五位） 日本吟剣詩舞振興会長吟詠奨励賞

令和六年度  
全国吟詠合吟コンクール

指定吟題

〈絶句編〉

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| ① 後夜仏法僧鳥を聞く     | 空海    |
| ② 九月十日          | 菅原道真  |
| ③ 楠公子に訣るるの図に題す  | 頼山陽   |
| ④ 太田道灌蓑を借るの図に題す | 作者不詳  |
| ⑤ 出郷の作          | 佐野竹之助 |
| ⑥ 元二の安西に使用するを送る | 王維    |
| ⑦ 早に白帝城を発す      | 李白    |
| ⑧ 楓橋夜泊          | 張繼    |
| ⑨ 菊花            | 白居易   |
| ⑩ 秦淮に泊す         | 杜牧    |

〈続絶句編〉

- |        |       |
|--------|-------|
| ⑪ 海を望む | 藤井竹外  |
| ⑫ 獄中の作 | 武市半平太 |
| ⑬ 金剛山  | 山岡鉄舟  |
| ⑭ 春を探る | 戴益    |
| ⑮ 問梅閣  | 高啓    |

令和七年度  
全国吟詠合吟コンクール  
指定吟題

絶句編

- |                 |      |
|-----------------|------|
| 1 生田に宿す         | 菅茶山  |
| 2 平泉懷古          | 大槻磐溪 |
| 3 將に東遊せんとして壁に題す | 釈月性  |
| 4 逸題            | 山内容堂 |
| 5 寒梅            | 新島襄  |
| 6 春曉            | 孟浩然  |
| 7 折楊柳           | 楊巨源  |
| 8 山行            | 杜牧   |
| 9 山間の秋夜         | 真山民  |
| 10 海に泛ぶ         | 王守仁  |
| 11 芳野に遊ぶ        | 頼杏坪  |
| 12 母を奉じて嵐山に遊ぶ   | 頼山陽  |
| 13 焦心録後に題す      | 高杉晋作 |
| 14 洞庭湖に遊ぶ       | 李白   |
| 15 春風           | 白居易  |

続絶句編



出場団体

〈吟題〉

菊花

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

〈作者〉

白居易

〈出場団体名〉 〈区分〉 〈出身〉

臥風流吟詠会本部Bチーム 女子 香川

田中 光風 児島 節風 植松 幸風 佐々木誠風  
片岡 秀風 廣瀬 恵風 長谷川喜風 大西 節風  
飯村 明風 正田 臥洋 上原 臥孝

黒川 村主 志風  
慧風

永井 恵風  
木太 和風

2

九月十日

去年の今夜清涼に待す  
秋思の詩篇独り断腸  
恩賜の御衣今此に在り  
捧持して毎日常香を拝す

菅原道真

公益社団法人日本詩吟学院認可岡山岳風会 男子 岡山

城井田岳英 高橋 岳幸 高橋 光岳 田中 祥岳 影山 正風  
橋本 浩風 田口 博風 早田 武風 赤枝 祝風 橋谷 信風  
広瀬 正山 伊島 隆山 大崎 哲泉

原田 和風  
尾中 忠風

3

菊花

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

吟詠道鶴洲流福岡吟詠会 女子 福岡

佐瀬 鶴鵬 日高 鶴瑛 増田 鶴珠 森田 鶴宝 岩本 鶴津  
城戸 鶴誓 高原 鶴鶯 山崎鶴粹声 奥田 鶴鶯 江上 鶴薦  
武田鶴潤鵬 西田鶴翔鵬 岩崎 郁子

波多野鶴溪  
藤崎鶴津誓

4

## 菊花

一夜新霜瓦に著いて輕し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

詩吟湧風流 女子 東京

和田 旭苑  
中嶋 杏苑  
鶴岡 城苑  
佐藤 淑苑  
木村 凜苑  
神 喜苑  
片岡 蕙苑  
蒲生 紅苑  
石井 桃苑

井原 瑠苑  
木野内 星苑

木田 梶苑  
山下 菱苑

橋本 晃苑  
石井 李苑

5

## 菊花

一夜新霜瓦に著いて輕し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

臥風流吟詠会本部Aチーム 女子 香川

安藤 鶴風  
田中 啓風  
藤本 紫風  
坂東 惠風  
青木 純風  
定國 臥美  
浦 姫風  
住田 春風  
松尾 臥祐

山本 萌風  
東原 妃風

中村 江風  
塩谷 溪風

森 賀風  
浜崎 翠風

6

## 春を探る

尽日春を尋ねて春を見ず  
杖藜踏破す幾重の雲  
归来試みに梅梢を把つて看れば  
春は枝頭に在つて已に十分

戴益

清吟堂吟友会 愛媛 女子 愛媛

河内 麗翔  
菅 麗樟  
岡田三知代  
兼久 麗瑠  
小林 麗輪  
上甲 麗耀  
長尾 鈴江  
内田 麗紫  
河野 麗澄

伊野 麗光  
大原奈緒子

北岡 和枝  
本田 麗翔

渡部 麗菜  
山内 麗修

7

## 後夜仏法僧鳥を聞く

閑林独坐す草堂の暁  
三宝の声一鳥に聞く  
一鳥声有り人心有り  
声心雲水俱に了々

空海

臥風流吟詠会本部Bチーム 男子 香川

須田 鋒風  
松川 天風  
田村 泰風  
池田 武風  
鎌田 鵬風  
古賀 臥隆  
尾松 隆風  
立川 龍風  
山岡 臥彰

佐々木政風  
定國 伯風

庵原 修風  
大野 勝風

鈴木 幹風  
片木 幸風

8

楠公子に訣るるの図に題す 頼

山陽

臥風流吟詠会本部Aチーム 男子 香川

海甸の陰風草木腥し  
史編特筆姓名馨し

堀井 敷風 久保 仁風  
山地 信風 岩田 雅風  
山地 岳風 宮本 舟風

堀合 健風  
浅井 延風  
五嶋 臥辰

草薙 賢風  
簡井 麓風  
横田 大西 良風 香風

小竹 敷風  
片山 辰風

一腔の熱血余瀝を存し  
児曹に分与して賊庭に灑がしむ

9

出郷の作

佐野竹之助

哲泉流中国地区Bチーム

女子 岡山

決然国を去って天涯に向う  
生別又兼ね死別の時  
弟妹は知らず阿兄の志  
懸懃袖を牽いて帰期を問う

武 繪泉 平松 韶泉  
雪吉 水泉 武政 春踊  
明金 春佳 奥野 英子

赤木 榮泉  
赤澤 耿佳  
木下 和子

丸野 蓬泉  
岡田 春愛  
樋口 新谷 系泉

牧野 俊泉  
滝澤 春瑤

10

早に白帝城を発す

李

白

豊晃吟道会 女子 福岡

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

齋藤 豊鈴 野上 晃華  
三浦 豊珠 馬場 晃明  
星野 晃菊 箕野 晃桃

内野千鶴豊  
牟田口晃聖  
下川恵美子

下川 美豊  
古野 晃宗  
三角 豊舟

中村 晃登  
富安 豊菜

11

早に白帝城を発す

李

白

徳島県吟剣詩舞道総連盟

女子 徳島

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

安田 水鈴 森脇 櫻泉  
真鍋 景江 森定 鴻扇  
原 華錦

福原 祥蓮  
福井 揚碧  
広野 生越 水由 美峰

塩田 瑞月  
萩原 景寶

野口 瑞博  
岡山 柴風

12

## 秦淮に泊す

煙は寒水を籠め月は沙を籠む  
夜秦淮に泊して酒家に近し  
商女は知らず亡国の恨  
江を隔てて猶お唱う後庭花

杜と

牧ぼ

## 島根県吟剣詩舞道総連盟 女子 島根

曾田 瑞恵 荒木 瑞幸 安部 瑞麗 杉原 麗蓮  
吉川 麗京 板垣 麗香 錦織 麗千 加谷 麗璃  
石飛 邦子 加谷 公代 福井 美恵 高橋 勝部 麗奈  
古川 安田 麗経

13

## 早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李り

白は

## 広島県吟剣詩舞道総連盟 福山 男子 広島

杉原 望洲 藤井 隆洲 坂本 素洲 古玉 岳重  
坂本 虎峰 南條 裕鵬 永田 紳鵬 濱田 祥鵬  
藤本 湖竜 高橋 秀竜 吹抜 伸竜 中嶋 垣原 岳孝  
内海 眺峰

14

## 早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李り

白は

## 公益社団法人日本吟道学院 女子 東京

勝間田 龍滯 安達 龍契 栗原 龍幸 佐藤 龍匠  
村松 龍月 森川 龍利 管野 舞龍 福崎 紅龍  
島田 幸祥 山中 希祥 木村 蝶城 渡邊 高橋 龍美  
田中 龍麗

15

## 早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李り

白は

## 吟道関心流岡山県本部 男子 岡山

柴倉 勇洲 赤木 良洲 野瀬 貴洲 木庭 洋洲  
赤木 憬洲 木待 勲洲 七村 志芳 本行 颯芳  
三宅 章文 高浪 豊利 前田 勇 小林 頌洲  
梶原 健洲  
山田良三郎

16

菊花

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

清吟堂吟友会 香川 女子 香川

篠原 麗鷲 鴨井 嘉子 奥村 麗瑠  
曾根 麗靖 浅田 麗洋 山地 麗莉  
篠原 麗素 近藤 房子 篠原 麗早

長井 麗千  
青井 和代

勇野喜麗希  
田中 麗光

近藤 麗春  
森 麗浩

17

早に白帝城を發す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李白

水真流聖山吟詠会 男子 広島

平賀 輝山 安達 幸山 森戸 慰山  
加島 秀山 森山 正山 西本 博泉  
高前 優太 北野 勝志

尾方 舜山  
佐々繁恒泉

川本 賢山  
名賀 撫泉

野崎 勵山  
川本 幸泉

18

出郷の作

決然国を去つて天涯に向う  
生別又兼ね死別の時  
弟妹は知らず阿兄の志  
慰懃袖を牽いて帰期を問う

佐野竹之助

福岡県吟剣詩舞道総連盟 男子 福岡

笠井 栄俊 小塩 晃楼 楠本 啓風  
岩田 栄篁 信国 士晃 川口 馨洲  
荒木 悠泉 鈴木 栄秀 菅田 栄光

小塩 岳翔  
木津 令風

吉丸 華城  
松熊 将聖

堺 晃生  
岡部 省岳

19

菊花

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

熊本県吟剣詩舞道総連盟 女子 熊本

藤城 宗文 池田 趣峰 瀧上 蘇孝  
吉田 繚峰 多田隈恵峰 坂口 荃峰  
後藤 侑絹 山中白梅子 小林 鈴永

宮原 侑曲  
藤原 侑艶

安部井鈴裕  
坂下 侑豊

深草 琳峰  
辻 侑陽

20

海を望むうみをのぞ

鵬際晴れ開く九万の天  
 無人の島は定めて何れの辺なる  
 風を追う狂浪奔馬の如く  
 忽ち巉礁に触れ砕けて煙と作る

藤井 竹外ふじい ちくがい

愛媛県吟剣詩舞道総連盟 男子 愛媛

松井 松聲 西藤 櫻山 藤岡 江心 神東 溪峰  
 能田 雅洲 寺尾 恒洲 上岡 肱洲 岩城 竹穹  
 原 清緑

田中 溪岳  
田中 現洲徳本 溪月  
塩見 江隼

21

太田道灌を借るの図に題すおたどうかんのかかりのずだい

作者不詳

広島県吟剣詩舞道総連盟 広島 女子

広島

夏野 緑声 寺田 晃山 樋口 珠山 大隈 惇山  
 今村 紗山 甲斐 鶴山 埴本 里山 日高 誠昂  
 小椋 鯉山 寺坂 虹声 中山 瑞声

高橋 明山  
崎元 誠緑佐々木 眞山  
関本 陽山

孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く  
 少女為に遺る花一枝  
 少女言わず花語らず  
 英雄の心緒乱れて糸の如し

22

出郷の作しゅきやうのさく佐野竹之助さのたけのすけ

哲泉流中国地区Bチーム 男子 岡山

白神 影泉 香取 升泉 国光 龍泉 村上 光泉  
 三原 魚春 藤井 淳春 水島 耿進 安藤 覺春  
 仁科 晴 国光 真寛 国光 奏和

田淵 耿文  
森本 臣男川上 耿道  
末永 壽男

決然国を去って天涯に向う  
 生別又兼ね死別の時  
 弟妹は知らず阿兄の志  
 慰懃袖を牽いて帰期を問う

23

出郷の作しゅきやうのさく佐野竹之助さのたけのすけ

吟道翔風流日本吟翔会 男子 鳥取

佐藤 翔風 佐藤 翔樹 山本 翔将 村尾 翔葵  
 奥田 万風 大江 耀風 森本 諒風 井上 颯風  
 小林 剣風 清水 章彰 平家 嶂彰

伊井野 翔踪  
大口 錦風中島 瞭風  
南口 絃風

決然国を去って天涯に向う  
 生別又兼ね死別の時  
 弟妹は知らず阿兄の志  
 慰懃袖を牽いて帰期を問う

24

元二げんじの安西あんせいに使用するつかいを送るおく王おう

維い

水真流吟詠会 男子 広島

寺本	龍山	新宅	勇山	有重	勲山
重谷	昇山	貞綱	峰山	中村	寛山
忠田	誓山	山田	樹山	松野	祐山

新谷 義山  
松本 繫山

橋田 旺山  
佐々木雅山

山中 正山  
宮浦 啓山

25

出郷しゅつきようの作さく

佐野竹之助

哲泉流中国地区Aチーム

女子 岡山

松浦	逍泉	原田	里泉	中野	顯泉	津川	枝泉
圓山	柗泉	山田	霞泉	斎藤	能泉	高原	蘇泉
貞利	雅子	猪木	原怜花	安原	妙子		

遠藤 麗泉  
中谷 春宗

島田 游泉  
河野 春薫

26

後夜ごやぶつぼうそうちよう仏法僧鳥きを聞く

空くう

海<sup>かい</sup>

吟詠愛峰流 女子 広島

内海智津峰	高尾	鳩峰	藤澤	汝峰
岩田海鷲峰	岡野万利峰		河村	紫峰
北村 美峰	中谷 理峰		出本	景峰

安部 芙美峰  
常盤 響峰

森静  
持田  
粹峰  
暁峰

松岡 鈴峰  
檀上 浩秀峰

27

出郷しゅつぎょうの作さく

佐野竹之助

哲泉流中国地区Aチーム

男子 岡山

大山 師泉  
 入江 文泉  
 中原 康廣  
 玄馬 六泉  
 井上 蒼春  
 佐能 泰弘  
 渡邊 淋泉  
 福島 碧春  
 入江 幸輝  
 白神 新泉  
 岩江 金春

村上 菖泉  
滝本 青春

原田 志泉  
河野 隆一

弟妹は知らず阿兄の志  
慇懃袖を牽いて帰期を問う

令和六年度  
全国吟詠合吟コンクール

29



28

出郷の作

決然国を去って天涯に向う  
生別又兼ね死別の時  
弟妹は知らず阿兄の志  
懸懃袖を牽いて帰期を問う

佐野竹之助

香川県吟剣詩舞道中讃連盟 男子 香川

石川 雅風 天野 峰春 鎌田 義風 大野 忠風  
今井 若泉 小西 幻秀 飯田 将風 荒井 晨風  
保科 正風 藤本 樹風 大西 晴風 航風

鈴木 賞泉  
鳴井 康彦

29

後夜仏法僧鳥を聞く

閑林独坐草堂の暁  
三宝の声一鳥に聞く  
一鳥声有り人心有り  
声心雲水俱に了々

空海

香川県吟剣詩舞道西讃連盟 女子 香川

細川 珠鳳 秋山 悠鳳 石川 城粹 大西 珀穂  
長田 翠鳳 白川 瑋穂 千秋 春宝 黒島 瞳風  
船橋 誠久 堀家 麗水 真屋 遥穂 西谷 瑞翔  
徳穂

岡根 瑛穂  
畑中 瑞珂

30

早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李白

水真流清心吟詠会 女子 広島

小藤 華山 西山 桜山 井上 娃山 木村 眞山  
西山 花山 加藤 珠山 平田 扇山 鴉田 栄山  
縄手 翔山 原 理泉 原 佳泉 原 西山 愛山  
栄山

木本 絢山  
小藤 侑山

31

海を望む

鵬際晴れ開く九万の天  
無人の島は定めて何れの辺なる  
風を追う狂浪奔馬の如く  
忽ち巉礁に触れ砕けて煙と作る

藤井 竹外

契秀流吟詠会 男子 神奈川

笹井 心吟 三枝 契憲 新倉 契菁  
古川 隆秀 前田 翔秀 山本 正平 直井 契亘  
精心

小林 契早  
鈴木 平野  
松岡 弘心

32

## 金剛山

一片の赤心報国の情  
 千秋の節義今に至るまで清し  
 金剛山下孤城の畔  
 挫き得たり虎狼百万の兵

山岡 鉄舟

徳島県吟剣詩舞道総連盟

男子 徳島

原田 瑞祥 篠原 脇泉 藤村 瑞宝 椎江 景公  
 芝原 水聖 原田 祥洸 志字 知秀峰 中山 鳳稜

市原 善鶯  
加藤 博心田村 水龍  
佐藤 景晃

33

## 菊花

一夜新霜瓦に著いて輕し  
 芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
 寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
 金粟の花は開いて暁更に清し

白 居 易

長崎県吟剣詩舞道総連盟

女子 長崎

宮本 精秀 永野 岳尚 宮崎 精英 佐々野 岳玲  
 森田 岳真 下田 岳雅 稲吉 美風 林 友風

磯永 龍淳  
吉川 香岳川上 岳龍  
森岡 雉岳

34

## 九月十日

去年の今夜清涼に待す  
 秋思の詩篇独り断腸  
 恩賜の御衣今此に在り  
 捧持して毎日常香を拝す

菅原 道真

水真流清心吟詠会 男子 広島

森岡 盟山 三川 紘山 河岡 滉山 立道 蘭山  
 吉村 常山 坂田 朗山 藤川 慎山 中村 彰山  
 一橋 真山 有馬 陽泉 上岡 征泉 木下 米山  
 輝山 津丸 煌山

中村 彰山

米山 輝山

津丸 煌山  
森脇 熒山

35

## 早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
 千里の江陵一日にして還る  
 兩岸の猿声啼いて住まざるに  
 輕舟已に過ぐ万重の山

李 白

吟道精修流 男子 神奈川

三浦 照修 中島 剛修 大津 純修  
 森川 志峰 飯塚 志邦 平野 志海  
 勝沼 範山 溝口 景泉 竹本 昭一

利根川 志水  
齋藤 英風佐藤 志正  
矢野 俊風松本 志昇  
上田 幸山

36

後夜仏法僧鳥を聞く

閑林独坐す草堂の曉  
三宝の声一鳥に聞く  
一鳥声有り人心有り  
声心雲水俱に了々

空海

哲泉流日本吟詠協会香川県女子香川

日下丘泉 多田黛泉 福井姚泉  
後藤珈泉 松岡受泉 鍵山伶泉  
高口娟泉 岡本絹泉 乙武澄泉

綾野姚泉  
小野寺星泉

吉岡英泉  
松田瑋泉

小橋出泉  
野方洋泉

37

出郷の作

決然国を去つて天涯に向う  
生別又兼ね死別の時  
弟妹は知らず阿兄の志  
懸懃袖を牽いて帰期を問う

佐野竹之助

香川県吟詠詩舞道西讃連盟男子香川

藤田栄宝 秋山伯鳳 安藤穂円  
合田守風 貞廣莊風 瀧本哲鳳  
矢野積鳳 脇翔鳳 篠原勝義

内山隆穂  
藤岡城彰

岡田功宝  
村上匠鳳

桑名寛風  
山縣蒼風

38

早に白帝城を発す

朝に辞す白帝彩雲の間  
千里の江陵一日にして還る  
兩岸の猿声啼いて住まざるに  
輕舟已に過ぐ万重の山

李白

水真流吟詠会女子広島

楠部希山 楠部倫山 池本照山  
吉松享山 野間腆山 丸中侑山  
小林翔山 森崎琮山 佐藤洸山

小橋苑山  
戸山頌山

金藤朋山  
美山

浮津洸山  
中村瑤山

39

金剛山

一片の赤心報国の情  
千秋の節義今に至るまで清し  
金剛山下孤城の畔  
挫き得たり虎狼百万の兵

山岡鉄舟

神刀無念凱山流女子栃木

川俣凱緋 神野凱望 原凱康  
藤原桜山 小林扇泉 五月女凱慧  
藤原凱黎 日外佳山

鹿野凱向  
根岸凱洸

安藤凱游  
本庄凱圭

星野凱珀  
蓮見凱艶

40

くがつとおか  
九月十日

きよねん 今年の今夜清涼に待す  
しんし 秋思の詩篇独り断腸  
おんし 恩賜の御衣今此に在り  
ほうじ 捧持して毎日余香を拝す

すがわらの  
菅原 道真

岳精流日本吟院六郷岳精会 女子 東京

上杉 龍景	前嶋 龍彩	三浦 龍江	寺澤 邦山	三田 頼山	井上 広山
井上 洋山	菱田 薫泉	川端 美泉	名倉 輝泉	小林 朱泉	北野 真泉
成田 幸泉	葛西 咲水	神戸とみ子			

41

つと はくていじょう  
早に白帝城を発す

あした 朝に辞す白帝彩雲の間  
せんり 千里の江陵一日にして還る  
りやが 兩岸の猿声啼いて住まざるに  
けいしゅう 輕舟已に過ぐ万重の山

李 白

雪山流吟詠会 女子 広島

平上 雪漣	山田 雪鸞	石田 雪粹	瀬木 雪夕	今井 雪紀	下西 雪嶺
宮本 雪容	山田 雪菱	木原 雪明	平本 雪頼	拓植 雪蓉	香川 雪榮
中岡 勝泉	辻 桜泉	平川八千代			

42

おおたどうかんみの  
太田道灌を借るの図に題す

こあん 孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く  
しやじやたぬ 少女為に遺る花一枝  
しやじやい 少女言わず花語らず  
えいゆう 英雄の心緒乱れて糸の如し

作者不詳

吟詠道鶴洲流山口吟詠会 女子 山口

中谷 鶴山	前田 鶴咲	岡本 鶴峯	岡崎 鶴織	増野 鶴竹	岡本 鶴孝
秦 鶯洲	中村 鶴千	鶴船	古屋 鶴洵	重富 鶴順	沖西 鶴翠
北詰 鶴玲	金石 鶴船				

43

しやぶつぼうそうちよう  
後夜仏法僧鳥を聞く

かんりん 閑林独坐す草堂の暁  
さんぼう 三宝の声一鳥に聞く  
いふせい 一鳥声有り人心有り  
せいしん 声心雲水俱に了々

空 海

臥風流吟詠会本部Cチーム 女子 香川

山本 錦風	細谷 千風	堀田 賀風	古川 静風	橋崎 圭風	宮本 妙風
菅原 美風	谷本 桃風	飯田 芳風	小泉 眞風	森 装風	市原 臥裕
大川 臥和	大塚 臥尋	谷 臥澄			

44

楓橋夜泊

月落ち烏啼いて霜天に満つ  
江楓漁火愁眠に對す  
姑蘇城外の寒山寺  
夜半の鐘声客船に到る

張繼

吟道関心流岡山県本部 女子 岡山

景 芳容 井上 芳優 神崎 芳真  
山本 芳馨 岩佐 芳榮 前田 芳與  
野崎 佳芳 川村 美芳 有瀬 加子  
小林 竹内  
輝 芳園  
松浦 岡本  
耀 芳纘

岡田 芳絳  
郁 芳

45

海を望む

鵬際晴れ開く九万の天  
無人の島は定めて何れの辺なる  
風を追う狂浪奔馬の如く  
忽ち巉礁に触れ砕けて煙と作る

藤井 竹外

吟道精修流 女子 神奈川

梶原 麗修 柳澤 紅修 加瀬 志勝  
板山 志櫻 吉田 志祥 山長 智風  
横山 博山 松田 雅山 加瀬由紀子  
小池 志柳  
宮坂 優風  
玉城 服部  
彩 志美

坂下 志彩  
遠藤 知風

46

菊花

一夜新霜瓦に著いて輕し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居 易

福岡県吟剣詩舞道総連盟 女子 福岡

岡野 麗風 松本 緑扇 長谷川 芳泉 椎原 恵雅  
熊谷 栄亮 田中 扇亮 長谷川 鯉泉 吉原 妃陽  
森永 岳敬 笠井 栄環 田中 栄琳  
和嶋 克峰  
江藤 桂緑  
渡邊 岳美  
平畑 紫陽

平畑 紫陽

47

出郷の作

決然国を去つて天涯に向う  
生別又兼ね死別の時  
弟妹は知らず阿兄の志  
慰懃袖を牽いて帰期を問う

佐野 竹之助

哲泉流中国地区Cチーム 女子 岡山

河田 蘭泉 藤森 眞泉 橋本 采泉 山下 瞳泉  
水落 零泉 栗本 栗泉 小林 耿真 前原 耿貴  
森定 秀美 石井 照子 藤井久美子  
羽原 閑泉  
加山 智恵子  
萩原 柏泉  
黒川 一美

48

つと はくていじょう  
早に白帝城を発す

李

白

熊本県吟剣詩舞道総連盟 男子 熊本

伊東 秀峰 土生 誠星 野村 蘇月 鹿子木 蘇凌  
向山 侑諒 梅田 侑正 今福 蘇明 吉田 仙峰  
奥田 旭峰 築地 鸞峰 土田 岳峰 本田 山口 泰峰  
鍛冶尾 凌峰

49

なんこうこ わか  
楠公子に訣るるの図に題す 頼

山陽

広島県吟剣詩舞道総連盟 広島 男子

楠部 齋山 木戸 一声 吉田 鴛山 吉川 滄汎  
正木 鵬山 道田 煌山 浮津 慶山 佐藤 琇山  
国利 滄宗 宮本 積山 二井谷 健山 栗原 颯山  
松尾 博山

石本 琢山  
藤沢 薫山

50

つと はくていじょう  
早に白帝城を発す

李

白

光風流山陽吟詠会 女子 山口

白濱 妃風 兒玉 江風 徳川 輝風 森田 慧風  
秋本 華風 勝部 麗風 松下 聖風 石丸 可風  
竹岡 稀風 永田 和代 鐘子 克子 小川 鈴木 里風  
藤川 青風  
花風

中屋 花風

51

おおたどうかんみの か  
太田道灌襄を借るの図に題す

作者不詳

雪山流日本吟詠学院 男子 東京

出浦 雪励 弓削田 雪笙 池田 雪奨 斎藤 雪嶺  
縣 鷹雪 小磯 要雪 會田 洋雪 堀川 暁雪  
川野 博峯 中野 省風 川上 岩風 新谷 薄倉 雪唱  
高橋 木村 博雪  
弘山

こあんあめ  
孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く  
しょうじょたぬ おぞ はないつし  
少女為に遺る花一枝  
しょうじょわす 花語らず  
英雄の心緒乱れて糸の如し

菊花きくか

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

水真流聖山吟詠会 女子

広島

三上 壽山 角田 陽山 伊藤 靖山  
登立 華山 原田 佳山 中野 康山  
平賀 桜 田部 京子 濱田 純子

幸島 彩山  
羽多野 清山

吉本 藹山  
頼政 馨山

佐々木 孝山  
黒川 慎泉

## 太田道灌を借るの図に題す

作者不詳

大阪府吟剣詩舞道総連盟

女子 大阪

荒川 瑞華 今井 彩黎 入口 翠雫  
衣松 盛雷 栗田 優岳 鈴木 永珠  
藤原 凜声 松岡 聖岳 森 佳仁  
長田 勝岳  
夏目 峰舟

木浦 寿成  
西川 恵岳

北尾 慶萌  
藤木 紅彩

## 早に白帝城を発す

李 白

東京都吟剣詩舞道総連盟

女子 東京

青井 紀風 加藤 岳紅 上村 瑛鳳  
田中 萩田 浪岡 輝山 成瀬 佳山  
藤田 霜晃 三浦 詩泉 山田 伯峯  
小塚 源晶  
根岸 玉桜

齋藤 風瑛  
原 京岳

鈴木 洲玉  
原田 理宝

菊花きくか

一夜新霜瓦に著いて軽し  
芭蕉は新たに折れて敗荷は傾く  
寒に耐うるは唯東籬の菊のみ有つて  
金粟の花は開いて暁更に清し

白居易

心彰流愛吟詩道会 女子

群馬

藤原 心姿 金田 心阜 柳橋 心道  
高田 心禎 坂本 心慶 近藤 心順  
田中 心宣 小暮 心啓 柳澤 春香

岩崎 心玲  
町田 心洋

金子 心佳  
碓水 心雅

吉野 心恵  
高木 心富



56

くがつとおか  
九月十日

きょねん 去年の今夜清涼に待す  
しゅうし 秋思の詩篇独り断腸  
おんし 恩賜の御衣今此に在り  
ほうじ 捧持して毎日常香を拝す

すがわら  
菅原 道真

嘉風流吟剣詩舞道 女子 山口

田邑 嘉風 高木 婉風 内野 羚風 佐伯 統風 田邑 嘉鐘 藤本 中原 晃風 征水

57

おおたどうかんみの  
太田道灌襄を借るの図に題す

こあんめ 孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く  
しょうじょう 少女為に遺る花一枝  
しょうじょう 少女言わず花語らず  
えいゆう 英雄の心緒乱れて糸の如し

作者不詳

公益社団法人日本詩吟学院認可 岡山岳風会 女子 岡山

中村 岳双 上久保岳幸 山崎 岳詔 村上 佳岳 栗山 美岳 綾野 福田 泉岳

58

おおたどうかんみの  
太田道灌襄を借るの図に題す

こあんめ 孤鞍雨を衝いて茅茨を叩く  
しょうじょう 少女為に遺る花一枝  
しょうじょう 少女言わず花語らず  
えいゆう 英雄の心緒乱れて糸の如し

作者不詳

朝翠流師鵬吟詠会 女子 岡山

山坂 美鵬 川野辺洋鵬 武田 美鵬 丹山 禮鵬 佐藤 晃鵬 中山 章鵬

59

しゅうきよう  
出郷の作

けつぜんくに 決然国を去って天涯に向う  
せいべつまた 生別又兼ね死別の時  
ていまい 弟妹は知らず阿兄の志  
いんぎんそで 懸懃袖を牽いて帰期を問う

さのたけのすけ  
佐野竹之助

島根県吟剣詩舞道総連盟 男子 島根

菊田 清恒 小山 信風 長野 正風 金山 孝風 南目 道風 須田 勢風

問梅閣 もんばいかく

春に問う何れの処よりか来る  
 春来つて何れの許にか在ると  
 月落ちて花言わず  
 幽禽自ら相語る

高たか啓けい

## 契秀流吟詠会 女子

## 神奈川

小倉 契秀  
 赤瀬 契映  
 種本 尊心

麻生 契春  
 赤阪 契潤  
 増田 秀裕

原 契如  
 松田 心雅  
 毛呂 秀明

佐藤 契渚  
 小倉 希心

広瀬 契南  
 吉澤 蝶心

後藤 契弘  
 米須 聖心



# 少壮審査会入選者・地区連絡協議会・ 幼少年・開催地推薦 吟剣詩舞

一三時〇〇分

## 〈第一回全国少壮吟詠家選考審査会入選者吟詠〉

### 1 折楊柳

楊柳 巨源 吟 荒崎 紫春

水辺の楊柳緑烟の糸  
馬を立て君を煩わして一枝を折る  
唯春風の最も相惜しむ有つて  
慇懃更に手中に向つて吹く

### 2 河内路上

菊池 溪琴 吟 徳安 緑晋

南朝の古木寒霏に鎖さる  
六百の春秋一夢非なり  
幾度か天に問えども天答えず  
金剛山下暮雲帰る

3  
両英雄

堂々たる錦旗関東を圧す  
ひやくまん  
百万の死生談笑の中  
ぐんしょう  
群小は知らず天下の計  
せんしゅうあいたい  
千秋相對す両英雄

徳富蘇峰  
吟  
太田 修道

4  
烏江亭に題す

勝敗は兵家も事期せず  
しやうはい  
差を包み恥を忍ぶは是れ男児  
はつ  
江東の子弟才俊多し  
こうとう  
卷土重来未だ知るべからず  
けんどうちゆうらいま

杜 牧  
吟  
綿谷 芳由

5  
母を奉じて嵐山に遊ぶ

嵐山に到らざること已に五年  
らんざん  
万株の花木倍鮮妍  
ばんしゆ  
最も忻ぶ阿母と衾枕を同にし  
もつと  
連夜香雲暖かき処に眠る  
れんやこううんあた

頼 山 陽  
吟  
郡司 明風

少壮審査会入選者・地区連絡協議会・  
幼少年・開催地推薦吟剣詩舞

6

静夜思

李

白

吟

平野

松草

牀前月光を見る

疑うらくは是れ地上の霜かと

頭を挙げては山月を望み

頭を低れては故郷を思う

〈全国地区連絡協議会推薦吟剣詩舞〉

〈中部地区連絡協議会代表〉

伊勢神宮

中江藤樹

吟

綿谷芳由

中西馨芳

舞

小倉紫暁

小倉萌明

加藤梢明

吉田朋香

光華孝徳 無窮に続き

正に懺皇と 業も亦同じ

黙禱す 聖人神道の教え

六合に照臨す 太神宮

# 〈近畿地区連絡協議会代表〉

## 壇の浦を過ぐ

魚莊蟹舎雨煙と為る  
 蓑笠独り過ぐ壇の浦の辺  
 千載の帝魂呼べども返らず  
 春風腸は断つ御裳川

村上  
 上仏  
 山

吟  
 中西  
 紫風

左納慶花翠

# 〈四国地区連絡協議会代表〉

## 桂浜

松青く砂白うして 翠螺横たわり  
 浦戸湾頭 秋気清し  
 名月 玲龍 雲を破って上り  
 金波 万里 一眸 明かなり

上本竹永

吟  
 大西  
 岳静

西村  
 江岳

福井  
 翔山

岩本  
 裕子

山本  
 悠岳

少壮審査会入選者・地区連絡協議会・  
 幼少年・開催地推薦吟剣詩舞



〈九州地区連絡協議会代表〉

日本刀

鍛冶研磨す幾百回  
霜鋒三尺玉に埃無し  
疑わず日本刀の犀利なるを  
曾て盤根錯節を試み来る

大鳥圭介

吟  
藤本誠堂

平野岳晴

舞  
津村義恵

川崎義信

〈特別出演 岡山大学吟詩部によるエールと吟詠〉

〈岡山大学吟詩部〉

壁に題す

村松文三

男児志を立てて郷関を出ず  
学若し成る無くんば死すとも還らず  
骨を埋む豈惟墳墓の地のみならんや  
人間到る処に青山有り

吟  
池朔太郎  
武薺美由紀  
東太陽  
瀨上侑希  
西山宗汰  
笹木大輔

大塚優  
辻佑真  
奥田あかり  
宮本晴生  
吉田健命

小倉葵  
野村彩花  
片山千佳子  
石岡由衣  
小渡航輝

加藤暖人  
三宅凜太郎  
河合祇希  
岡本和航  
帆足聖

栗原孝明  
海士部あきこ  
杉本葵  
小川さくら  
前田鉄兵

# 〈幼少年代表吟剣詩舞〉

## 〈中国地区連絡協議会〉

弘道館に梅花を賞す

徳川景山

弘道館中千樹の梅  
清香馥郁十分に開く  
好文豈威武無しと謂わんや  
雪裡春を占む天下の魁

吟（広島）  
小藤侑梨乃  
舞（岡山）  
藤原陽葉理  
内藤あさひ  
堤 薫子  
縄手 美月  
原 万理恵  
原 彩佳理  
畑本 彩希  
塚本 咲和  
浅井 もあ  
永瀬 蓮  
永瀬 楓  
堤 さくら

偶成

大鳥圭介

水陸三千共に兵を進め  
両軍今日輸贏を決す  
丘に上って一望すれば敵方に近し  
袖に触るるの飛丸戛として声有り

吟（岡山）  
国光 真寛  
舞（岡山）  
花本 瑛里  
若林 希一  
堤 伊織  
国光 奏和  
廣澤 昊茂  
原 悠晟  
戸川 碧人  
田村 玖真  
順貴  
岡野 航大  
田村玖琉実  
藤原 昂大  
河瀬 泰知

少壮審査会入選者・地区連絡協議会・  
幼少年・開催地推薦吟剣詩舞

白虎隊  
びやっこたい

南鶴ヶ城を望めば砲煙上がる  
みなづる じょう ぼうえんあ  
痛哭涙を飲んで且つ彷徨す  
つうくくなみだ の かつ ぼうこう  
宗社亡びぬ我が事畢わる  
そうしやぼろ わ ことお  
十有九人屠腹して僵る  
じゅうゆうくにんとふく たお

佐原盛純  
さ はら もり ずみ

吟（広島）  
竹本 幸輝

後藤 花音

舞（広島）  
土井長 翼

古賀 光

土井長 遼

山吉 弘晃

天草洋に泊す  
あまくさなだ はく

雲か山か呉か越か  
くも やま くれ 越えつ  
水天髯髯青一髪  
すいてんぼうせいいっぱつ  
万里舟を泊す天草の洋  
ばんり ふね はく あまくさ  
煙は篷窓に横たわって日漸く没す  
けむり ぼうそう よこ ひようや ぼつ  
瞥見す大魚の波間に躍るを  
べっけん たいぎよ はかん おど  
太白船に当って明月に似たり  
たいはくふね あた めいつき に

頼山陽  
らい さん よう

吟（岡山）  
大山 桔乃

舞（岡山）  
田中 優季

和氣 桜子

片山 心結

畑本 彩結

香西 美佳

# 〈開催地代表吟剣詩舞〉

## 〈岡山県吟剣詩舞道総連盟〉

春日山懐古

大槻磐溪

春日山頭晚霞に鎖さる  
驕嘶き罷んで鳴鴉有り  
憐れむ君が独り能州の月を賦して  
平安城外の花を詠ぜざりしを

綱島	宮末	銅山	木待	赤木	入江	福島	渡邊	早田	高橋	森	梶原	真鍋	高津	山本	大橋	吟
央珏	紫孝	寛鵬	叡洲	良洲	幸輝	碧春	淋泉	武岳	光岳	康風	重岳	信洲	摂溪	鷺風	宗風	
川上	千田	長瀬	七村	木庭	川寄	滝本	村上	尾中	田中	家原	北村	森本	安藤	山城	宮野	
央俊	紫新	隆鵬	志芳	洋洲	正山	青春	菖泉	忠風	祥岳	実誠	摂恵	展鵬	紫靖	明洲	鶴誠	
高浪	和氣	森下	本行	小林	佐藤	河野	原田	廣瀬	影山	岩山	赤澤	好井	筑後	小坂	中西	
豊利	教世	紀鵬	颯芳	頌洲	春山	隆一	志泉	正山	正岳	元風	志峰	海山	魁山	蘆洲	摂奨	
山田良三郎	森岡	西内	櫛田	梶原	玉井	中原	入江	玄馬	原田	岡本	大山	小島	川渕	矢吹	千田	
	光暄	良鵬	晃芳	健洲	幸山	康廣	文泉	六泉	和風	粹風	師泉	青山	洋鵬	勢風	岳鵬	
前田	三野	柴田	三宅	赤木	植田	佐能	井上	白神	橋本	城井	小川	杉山	藤原	渡辺	坪井	
勇	正俊	明	章文	憬洲	善風	泰弘	蒼春	新泉	浩岳	田岳	勇山	友岳	征風	岳泉	誓山	

少壮審査会入選者・地区連絡協議会・  
幼少年・開催地推薦吟剣詩舞

汪倫に贈る

李

白

李白舟に乗って将に行かんと欲す

忽ち聞く岸上踏歌の声

桃花潭水深さ千尺

及ばず汪倫が我を送るの情に

清水宗治

藤上南山

殺到す東軍 十万の兵

攻防 百戦 孤城を保る

沛然たり梅雨 濁流漲り

一死 従容たり恨みを呑むの情

吟

河田 藤泉

米本 耿泉

上野 尊倫

猪木原 泓泉

赤木 榮泉

武政 春踊

樋口 春眺

宮本 美泉

竹内 芳光

山本 芳磐

宮田 郁芳

武田 美鵬

和田 尊晶

砂川 凜世

太田 富久子

久保輝一 鵬

大西 岳美

日枝 柔鵬

竹内 芳園

丸野 蓬泉

赤澤 耿佳

奥野 英子

戸田 麗風

小黒 芳鶴

岩佐 芳榮

野崎 佳芳

吉國 惠鵬

西村 尊祐

水野 光雪

高山 鶴山

有森 芳由

山坂 美鵬

景 芳容

新谷 系泉

岡田 春愛

木下 和子

杉村 幸風

神崎 芳貢

前田 芳興

川村 美芳

高橋 鶴瑛

高岡 里水

馬場 陽子

白神 君風

大塚 芳媯

武 納泉

和氣 榮世

牧野 俊泉

明金 春佳

浦部 圭泉

須崎 裕風

岡本 芳纈

小林 輝芳

有瀬 加子

藤岡 鶴扇

安原 華水

家原 央恭

今井 尊容

松井 芳春

神田 鶴秋

平松 韶泉

雪吉 水泉

滝澤 春瑤

森脇 碧水

井上 芳優

岡 芳絳

松浦 耀芳

川野 辺洋鵬

森 尊英

稲田 蒼世

川上 房江

倉敷周遭即事

藤上南山

風和らぎ楊柳 輕煙を帶び  
白鷺 飛び来りて水辺に舞う  
知る是れ連綿たり天領の地  
紫薨 白壁 軒を接して鮮やかなり

吟 白神 綱風  
舞 今脇 萌山  
妹尾 昇山  
岡崎 玉紹  
那須 華清  
安田 楓央

武政 紫柑  
永岡 笙山  
安井 薫山  
藤原 恵友  
浅上 楓諒

猪木原 怜花  
松永 楓山  
甲本 南陵  
長田 恵就  
下古立 虹園

浅利 黎山  
水川 象景  
馬場 恵純  
間野 縁心

内藤 秀山  
奥田 萌麗  
柳本 秀玲  
三角園 薫風

少壮審査会入選者・地区連絡協議会・  
幼少年・開催地推薦吟剣詩舞

# 全国コンクール優勝者の披露

一四時一五分

令和六年度全国吟詠コンクール決勝大会（令和六年九月十六日、東京・日本教育会館一ツ橋ホールで実施）

令和六年度全国剣詩舞コンクール決勝大会（令和六年九月二十三日、大阪・門真市民文化会館ルミエールホールで実施）

令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会（令和六年二月十一日、愛知・東海市芸術劇場で実施）

## 〈吟詠コンクール〉

### 幼年の部

吟詠 遠山 凜香（東日本地区代表・東京）

江南の春

杜と

牧

千里鶯啼いて緑紅に映ず

水村山郭酒旗の風

南朝四百八十寺

多少の楼台煙雨の中

### 少年の部

吟詠 原田 愛子（九州地区代表・大分）

九月十日

去年の今夜清涼に待す

秋思の詩篇独り断腸

恩賜の御衣今此に在り

捧持して毎日余香を拝す

菅原道真



一般三部

吟詠

中野 澄子（中国地区代表・広島）

佳賓好主

つきは梅花を訪うて好主と為し  
うめは月影を邀えて佳賓と作す  
佳賓好主両つながら双絶  
管領す黄昏一刻の春

佐藤 一斎

一般二部

吟詠

井川 良得（東日本地区代表・茨城）

時に憩う

薪を担うて翠岑を下る  
翠岑路は平かならず  
時に憩う長松の下  
静かに聞く春禽の声

良寛

青年の部

吟詠

原 光希（近畿地区代表・兵庫）

従軍行

秦時の明月漢時の関  
万里長征して人未だ還らず  
但竜城の飛将をして在らしめば  
胡馬をして陰山を度らしめず

王 昌齡

一般一部

吟詠

井戸 隆裕（近畿地区代表・大阪）

従軍行

秦時の明月漢時の関  
万里長征して人未だ還らず  
但竜城の飛将をして在らしめば  
胡馬をして陰山を度らしめず

王 昌齡

# 〈剣詩舞コンクール〉

## 幼年の部 — 剣舞 —

剣舞 塙 嘉門（中部地区代表・愛知）

鞍馬の牛若

くらま うしわか  
おんじゅうまぐみやしんかん てつ  
恩讐脉脉心肝に徹す  
くら まやま うしわかまる  
鞍馬山の牛若丸  
きつもん よ とすりやく  
経文を読まず韜略を読む  
れんま いっけんてん よ  
錬磨の一剣天に倚つて寒し

松 口 月 城

## 幼年の部 — 詩舞 —

詩舞 齊藤 柚璃（近畿地区代表・兵庫）

青葉の笛

あおば ふえ  
いち たに せんぞう  
一の谷の軍營遂に支えず  
へいけ まつろひと かな  
平家の末路人をして悲しましむ  
せんうんおさ としぞうんげつ  
戦雲収まる処残月あり  
さいじょうふえ かな  
塞上笛は哀し吹きし者は誰ぞ

松 口 月 城

## 少年の部 — 剣舞 —

剣舞 建部 有咲（中部地区代表・愛知）

客舎の壁に題す

かくしや へき だい  
この志を成さんと欲して豈躬を思わんや  
ほね うず せいざんへきかい うち  
骨を埋む青山碧海の中  
よ ほうとう  
酔うて宝刀を撫し還冷笑す  
けつぜんうま おど  
決然馬を躍らして関東に向う

雲 井 龍 雄

## 少年の部 — 詩舞 —

詩舞 堀 真大朗（中部地区代表・愛知）

青葉の笛

あおば ふえ  
いち たに せんぞう  
一の谷の軍營遂に支えず  
へいけ まつろひと かな  
平家の末路人をして悲しましむ  
せんうんおさ としぞうんげつ  
戦雲収まる処残月あり  
さいじょうふえ かな  
塞上笛は哀し吹きし者は誰ぞ

松 口 月 城

一般三部

剣舞

剣舞

小澤 文子

(中部地区代表・愛知)

涼州詞

王

之 渙

黄河遠く上る白雲の間

一片の孤城万仞の山

羌笛何ぞ須いん楊柳を怨むを

春光度らず玉門関

一般三部

詩舞

詩舞

蜂須賀

記代子

(中部地区代表・愛知)

厳島

浅野 坤山

遥かに鼈背を觀れば一蓬萊  
幾々たる雲煙瑞台を擁す  
月落ちて長廊灣上に静かなり  
万灯の星列波を照して来る

一般二部

剣舞

剣舞

西原 香

(近畿地区代表・兵庫)

豊公の旧宅に寄題す

荻生 徂徠

海を絶るの楼船大明を震わす

寧んぞ知らん此の地柴荊を長ぜんとは

千山の風雨時々悪しく

猶お作す当年叱咤の声

一般二部

詩舞

詩舞

入倉 仁美

(中部地区代表・愛知)

壇の浦を過ぐ

村上 仏山

魚莊蟹舎雨煙と為る  
蓑笠独り過ぐ壇の浦の辺  
千載の帝魂呼べども返らず  
春風腸は断つ御裳川

青年の部 | 剣舞 |

剣舞 上岡 雅治 (中部地区代表・三重)

和歌・さえのぼる

さえのぼる月にかかれる浮雲の

末ふきはらへ四方の秋風

さえのぼる月にかかれる浮雲の

末ふきはらへ四方の秋風

織田信長

青年の部 | 詩舞 |

詩舞 原 光希 (近畿地区代表・兵庫)

和歌・よもの海

よもの海みなはらからと思ふ世に

など波風のたちさわぐらむ

よもの海みなはらからと思ふ世に

など波風のたちさわぐらむ

明治天皇御製

一般一部 | 剣舞 |

剣舞 奥谷 晶子 (中部地区代表・愛知)

豊公の旧宅に寄題す

海を絶るの楼船大明を震わす

寧んぞ知らん此の地柴荊を長ぜんとは

千山の風雨時々悪しく

猶お作す当年叱咤の声

荻生徂徠

一般一部 | 詩舞 |

詩舞 伊藤 修司 (中部地区代表・愛知)

和歌・よもの海

よもの海みなはらからと思ふ世に

など波風のたちさわぐらむ

よもの海みなはらからと思ふ世に

など波風のたちさわぐらむ

明治天皇御製

# 令和五年度全国剣詩舞群舞コンクール

## 群舞・剣舞

剣舞

友井川 友（近畿地区代表・兵庫）  
菅 富士子 松本文

大楠公

赤坂の城千窟の屯

妖雲漠々天を捲いて臻る

夢は新たな笠置山頭の暁

花は散り香は薫る芳野の春

涙を呑んで兎に別る桜井の駅

笑って死に就く湊川の津

南風競わず地に塗ると雖も

偉績長えに伝う忠烈の神

河野天籟

詩舞

入倉 真之将（中部地区代表・愛知）  
堀 由起子 三浦 正碁  
堀 真悠子 堀 真大朗

錢塘懷古次韻

天目山崩れて炎運徂き

東南の王氣平蕪に委ぬ

鼓聲は震う三州の地

歌舞香りは消ゆ十里の湖

古殿重ねて尋ねれば芳草合し

諸陵何くにか在る断雲孤なり

百年の江左風流尽き

小海空しく環る旧版図

釈

絶海

## 群舞・詩舞



トレーナー (KT-1000)

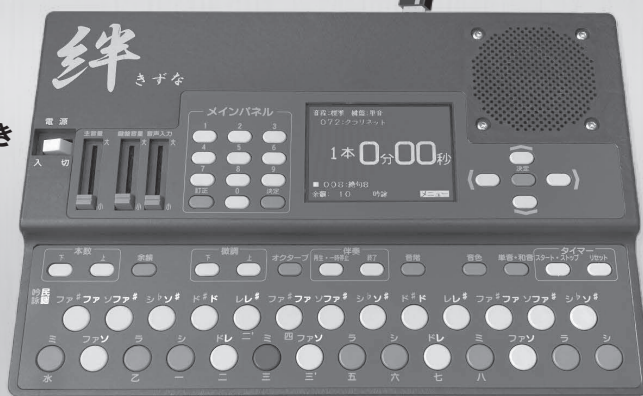
「絆」1台で練習から本番まで簡潔・完結

業界初の目玉楽器！！

87,780円(税込)

下取りサービス 10,000円割引！77,780円(税込)

- ①大音量が魅力！  
マイク、外部出力端子付き
- ②伴奏曲57曲内蔵！  
水4～12本対応
- ③同時に鍵盤も弾ける！  
重伴奏(和音)が可能



CDから音源を取込  
USB使用で幅広く！  
(CD音源の本数変更に5本可能)

USB拡張基板  
6,050円(税込)

寸法/幅 300mm × 奥行210mm × 高さ55mm

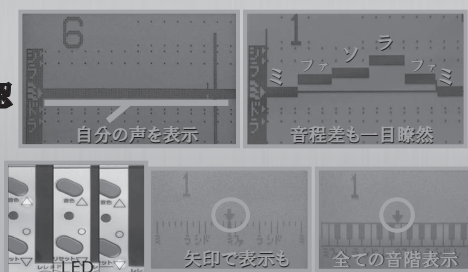
水光社オリジナルカラオケ式音程機搭載！(HT-200)

ニューハンディトレーナー2

38,500円(税込)

下取りサービス 6,000円割引！32,500円(税込)

- ①軽量・小型
- ②音程確認
- ③アクセント確認
- ④本数確認
- ⑤省エネ機能



寸法/幅 210mm × 奥行100mm × 高さ30mm

瞬間的に自分の声を測定し、止めて確認できる、優れモノ！  
ニューハンディトレーナー(HT-100)の機能はすべて搭載！

ハンディタイプで満足機能・今まで通りの練習を！(HT-100)

ニューハンディトレーナー

31,240円(税込)

下取りサービス 6,000円割引！25,240円(税込)



寸法/幅 210mm × 奥行100mm × 高さ30mm

今までのハンディタイプと同じく軽量小型  
陰・陽・律音階切り替え  
電池駆動で充分！タイマーや基本的な機能  
絶句用、和歌用、俳句用等10曲内蔵！  
音色4種類、自分の耳に合う音色で  
初心者からベテランまで充分に練習できる楽器

アダプターや専用バッグ等、オプション品のご案内・古いものから買い替え、下取りサービスもごさいます。  
無料の講習会を月に一度、東京にて開催しています。老舗ならではの技術と志向を揃えております。お気軽にお問合せ下さい。

(株) 水光社

〒171-0022  
東京都豊島区南池袋2-19-1  
伊藤ビル401  
TEL 03-3986-5631  
FAX 03-3986-8832



LINE



公式HP

構成番組

# 染む紫の 雲の上まで

一五時二五分

全国吟剣詩舞道大会特別企画吟剣詩舞

第五十四回

脚本・演出

ナレーション

佐々木宏高

小村晶子



1

常盤孤を抱くの図に題す

梁川星巖

吟  
向山侑真

猪木原漉泉

雪は笠檐に灑いで風袂を捲く  
呱呱乳を見むるは若為の情ぞ  
他年鉄拐峰頭の嶮  
三軍を叱咤するは是れ此の声

2

鞍馬の牛若

松口月城

吟  
大山宗鵬

野上吟鴻

恩讐脉脉心肝に徹す  
鞍馬山の牛若丸  
経文を読まず韜略を読む  
鍊磨の一剣天に倚つて寒し

# 五條の橋

頼

杏坪

吟

牛島 榮  
玲豊 岳蓉

大森 麗禎

恒成光熙子

五条橋上一神童

走ること流星の如く飛ぶこと風の如し

面を掩い刀を提げ知る何者ぞ

三千の徒裏武蔵坊

刀を抛ち服了す神州の術

是より終身僕従を約す

芳野安閑多少の陰

郎党扶け得たり牛若丸

# 奇襲鴨越

翠巒碧浪砦を守り  
 一の谷の防備頗る固し  
 義経敵の虚を衝かんと欲して  
 密かに六甲の一角を扼す  
 人馬一体忽ちにして下る  
 岨々峻々の鴨越  
 潰走の兵海上に逃る  
 矢は飛びて鮮血波を彩る

大  
野  
恵  
造

吟

堤

龍美

林

杏泉

蒔田淳芽心

舞

早淵

鯉將

柏木

鯉岳

西原 鯉瞳

坂上

鯉盛

西原

鯉靖

井上 鯉昊

河村

鯉玖

## 一の谷懐古

梁川星巖

吟

原田光玲子

菊野 桜山

野中 秀宗

二十余春夢一空

伊東 響峰

豪華吹き散ず海嶼の風

舞

藤上 翔山

原 惠千

岡野 惠淳

山は殺気を排して参差として出で

松山 惠煌

永岡 笙馨

高見 瓊翔

潮は冤声を迸らせて日夜東す

松尾 翠鴻

川口 曜虹

高橋 彩

憶う昔満宮去鷁を悲しみ

藤上 綺夏

安友 理恵

田中 美紅

往事を将って飛鴻に問わんと欲す

鎌田 美波

北山加寿美

爛斑剰し見る英雄の血

塹樹鵲啼いて朶々紅なり

6

逆櫓さかろ頼らい山陽さんよう吟  
星野 紫榮

石川 渾風

西岡 緑優

海風船を打って船腹を穿つ  
 東兎馬に慣れて船に慣れず  
 前むには順櫓を設けて却くには逆櫓  
 公唯直前す是れ猪武  
 猪か鹿か君奚ぞ疑わん  
 鬼たり蠅たる君未だ知らず

7

扇の的おうぎまと松口月城まつぐちげつじょう吟  
巽 吟城

浅田 聖謙

石川 春海

源平はいざや波より現はるる  
 扇の船のあれかし屋島

田村 鳳泉

舞  
入倉 昭星

伊藤 昭凱

入倉 星心

伊藤 昭勇

看るべし屋島壇の浦  
 源平の戦記情を引くこと多し  
 舷頭姫あり扇を的と為す  
 馬上士あり弓に命を賭く  
 南無八幡大菩薩  
 一矢誉れは伝う千載の名

壇ノ浦を過ぐ

村  
上  
仏  
山

魚莊蟹舎雨煙と為る  
簀笠独り過ぐ壇の浦の辺

吟  
岩永 優岳

関口 麗煌

中野 祥理

今ぞ知る 御裳川の 流れには  
浪の下にも 都ありとは

舞  
多田 正晃  
多田 正千衣

多田 正稔  
多田 啓良

多田 正千世

千載の帝魂呼べども返らず  
春風腸は断つ御裳川

染む紫の雲の上まで

## 和歌・見るとても

静しづか 御ご 前ぜん静御前しづみへん横よこ 山やま 耐たい 雪せつ

吟 山中梅鈴子

今城 龍栄

野嶋 帆楓

舞 見城 星舟

見城 星梅月

古田 星紗

見るとても 嬉しくもなし ます鏡かがみ

宇津木 星青龍

佐野 星丹

高橋 星琴

恋しき人の かげをとめねば

白雪はくせつの芳山ほうざん去路遙きはるかなり聞きくに忍しのびんや布粟ふぞくの童謡どうように入るを春風唯蓮台しゅんぷうただれんたいの上に在あり両袖りょうしゅうの涙痕なみこん吹けども消しょうせず



# 義経流離

大野恵造

吟

尾崎 水紅

土澤 美岳

加藤 契琵琶

舞

青柳弦太郎  
青柳芳桂慈

青柳 芳栄  
青柳 芳海

青柳 芳紀  
青柳 芳優

一将烈しく義経の功を猜む  
宇府讒を容れて骨肉を逐う  
故旧亡じ難く芳山に入れば  
賓を迎えて遇するは唯氷雪のみ  
天下已に身を置く処無し  
乃ち郎党を具して陸奥に走る  
悲運の人緑暗に憩うの時  
杜鵑代って放つ裂帛の声

# 安宅の関

角  
光  
嘯  
堂

吟

松葉 水緑

宇井 修光

安藤 聖楓

暮鐘一点寒山に響き

向山 侑珠

小池 貴心

寂滅煩惱無常觀

舞

杉浦 英容

大日方佳容

荒谷 麗容

篠懸の露にや濡れん 旅衣

奥谷 晶容

干くひまなし 野辺の小徑に

如月の風は寒し海津の浦

主従彷徨安宅の関

木芽山 夕の雲や へだつらん

松風寒し 関のとざしに

多少の関山将に過ぎんとす

陸奥千里一歩の関

諸国の勧進一声に集り

遊子の心情人亦嘆く

ひらいずみかいこ  
平泉懷古

さんせい げうかていきやう  
三世の豪華帝京に擬す  
しめろうへきでんくも  
朱楼碧殿雲に接して長し  
ただいまだとうぜん  
只今唯東山の月のみ有って  
きたて  
来り照らす当年の金色堂

おお  
大  
つぎ  
槻  
ばん  
磐  
けい  
溪

吟

前田  
卓靈

佐々木秀景

染む紫の雲の上まで

## 弁慶の舞

弁慶

武蔵坊弁慶

杉浦重剛

吟

八代光晃子

山岡桜山

米本耿泉

塩澤宗鳳

舞

上岡眺壮

小倉萌眺

上岡眺星

加藤梢眺

美濃部眺匠

うれしや瀧の水  
鳴るは瀧の水

日は照るとも絶えずとふたり

東の奴原が

鎧兜を首もろともに

衣川に切流しつるかな

黒衣覇を助けて幾十載

忠義の心と兼ね文武の才

怪しむを止めよ風流余裕を欠くを

終身折れず一枝の梅

衣川ころもがわ大野恵造おおのけいぞう

吟詠スーパーチーム

森田 夏星

向山 侑諒

藤吉光瑞子

原 瑞真

剣詩舞スーパーチーム

早淵 鯉仙

五月女凱昂

入倉 昭山

入倉 昭鳳

増井 鯉冠

上岡 眺雅

上岡 眺隆

増井 鯉康

杳川 鳳容

長澤 美心

堀木 咲明

見城星梅月

杉浦 裕容

孤影惨たり亡命の客  
 百里潜行平泉に至る  
 秀衡義に依つて庇護すといえども  
 鎌倉の威嚇愈儼然  
 此処も亦安住の地に非ず  
 無常の春風衣川を吹く  
 一夜泰衡孤館を囲み  
 絶代の英雄北辺に死す  
 年齒時に三十一  
 文治五年桜花の天  
 義経の末路何ぞ悲壮なる  
 数奇の運命史編に伝う

辞世

辞世

武蔵坊弁慶

源義経

吟  
河野鶴聲

和田彩楓

六道の みちの巷に まてよ君

おくれ先だつ ならひありとも

後の世も また後の世も めぐりあへ

そむ紫の 雲の上まで

# 祇園精舎

平家物語

吟  
少壮吟士全員

祇園精舎の鐘の聲  
諸行無常の響きあり  
沙羅双樹の花の色  
盛者必衰の理を顯す  
奢れる人も久しからず  
ただ春の夜の夢の如し  
猛き者も遂には亡びぬ  
偏へに風の前の塵におなじ



# 令和六年度全国吟詠合吟コンクール 入賞団体発表と表彰及び大合吟

## 〈大合吟〉

### 吟剣詩舞道讃歌

笹川 良一

あした ぎん ゆうべ  
朝に吟じ夕に舞うて心身を練り  
れいせつじ きた たが しん やしの  
礼節持し来つて互いに真を養う  
せかい いっかみなわ とも  
世界は一家皆我が友  
ねが しどう おこ じんりん ただ  
願わくは斯道を興して人倫を正さん



公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会 会詩  
笹川良一 創始会長 書

一七時〇〇分〜

〈財団公認各吟剣詩舞道総連盟代表〉

岡 山	奈 良	大 阪	京 都	福 井	石 川	富 山	愛 知	神 奈 川	東 京	埼 玉	千 葉	新 潟
藤上 ふじかみ 翔山 しょうざん	芳倉 よしくら 清峰 せいほう	山内 やまうち 邦照 ほうしやう	山田 やまだ 静将 せいしやう	渡邊 わたなべ 皇洲 おうしゅう	前山 まえやま 紫峰 しほう	松澤 まつざわ 天楓 てんぷう	遠藤 えんどう 晃楓 こうふう	田中 たなか 国臣 こくしん	熊木 くまき 雪洲 せつしゅう	清水 しみず 錦洲 きんしゅう	石井 いしい 桃苑 とうえん	宮川 みやかわ 紫朋 しほう

熊 本	宮 崎	長 崎	佐 賀	福 岡	高 知	徳 島	愛 媛	香 川	島 根	鳥 取	山 口	広 島
大野 おおの 豊寿 ほうじゅ	中武 なかつたけ 玲星 れいせい	藤本 ふじもと 誠堂 せいどう	寺町 てらまち 松博 しょうはく	河野 かわの 鶴聲 かくせい	柿内 かきうち 岳正 がくせい	原田 はらだ 瑞祥 ずいしやう	松井 まつい 松聲 しょうせい	横山 よこやま 公風 こうふう	中林 なかばやし 涼風 りやうふう	佐藤 さとう 翔風 しょうふう	高木 たかぎ 法洲 ほうしゅう	楠部 なんぶ 齋山 せいざん

全国吟詠合吟コンクール入賞団体発表と  
表彰及び大合吟